

# すずむし

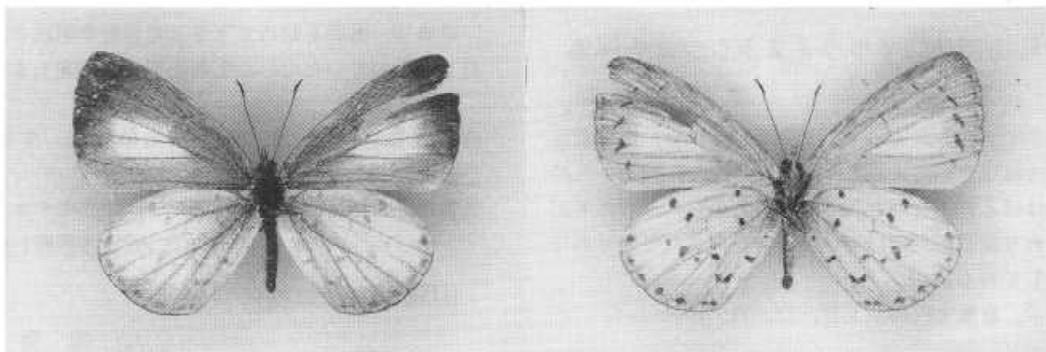
NO. 129

Feb. 1996

倉敷昆虫同好会

## サツマシジミを大佐山で採集

広瀬 正明\*



サツマシジミはインドから東南アジア大陸部、中国、台湾、日本にかけて分布し、我が国では九州、四国西部、本州では南西部（山口、広島）に局限して分布が確認されているほか、本州の太平洋側では三重県南部を北限として、滋賀県、大阪府、兵庫県、奈良県から散発的な記録があり、日本海側では鳥取県の大山付近を北限として島根県以西で得られている。

西隣の広島県では西部海岸地帯（宮島など）を中心には産地が確認されているようであるが、岡山県では長年未記録であった。1992年7月4日に上斎原村の県立森林公園内で難波通孝氏が写真撮影された1♀が唯一の記録である。

この度、筆者は岡山県下で初めて本種を採集したので、報告する。

### 採集データ

サツマシジミ *Uda albocaerulea* MOORE 1♂

採集年月日及び時刻：1994年7月16日午後3時頃

採集場所：阿哲郡大佐町大佐山8合目(830m)付近

保管場所：倉敷昆虫館（重井博館長）

大佐山での調査を行い、山頂からの帰路、車を運転しながらふと道路際のアザミで吸蜜中の本種を目撃した。最初は多分ルリシジミであろうと思ったが、飛翔中の翅表の色調が白っぽい感じがして、ひょっとすると本種かもしれないという淡い期待でネットに収め、帰宅後展翅をしながら確認した次第である。

採集地の状況は、コナラ、ミズナラ、アベマキなどの広葉樹林を切り開いた自動車道の脇で、雑草の中に数株のアザミが咲いているという極く平凡な地形であり、他に本種と思われる蝶は目撃されず、単独で行動していたものようであった。もちろん食樹と思われるサンゴジュ、クロキ、ガマズミなどは周辺には認められなかった。

本種の生態については、福田ほか（1982）によると、四国の南部や九州では低地から山地帯まで広く分布しており、3月中旬から11月にかけて数回発生をみるが、低地では早春から6月頃までと9月以降に多く、夏季には著しく減少する一方、山地帯では6～8月にかけての夏季に多く、秋以降は姿を消してしまい、季節により成虫の見られる場所が変化することが知られている。このことは、本種の食樹（幼虫はサンゴジュ、ク

\* 〒710 倉敷市有城498-5

ロキなどの木本の花を好む)がいくつかあって、それそれ花をつける時期が標高によって異なるために、これを求めて発生地が移動するものと考えられるが、高標高地における食樹が何なのかも含めて、詳しい周年経過等については未知の部分が多いように思われる。

土着地を越えた中国地方東部での記録をみると、大山をはじめ、ほとんど夏季に山地で偶然得られたものであり、そこに定着しているものか、あるいはより南方の生息地から飛来して二次的に発生したものかはまだ確認されていない。今回の記録を含めた岡山県の2例の記録も標高800mを超える山地に飛来して発生したもの一部と考えられる。

今後、岡山県で夏季に北部山地での採集例が期待されるが、さらに、県の南部平地や低山地でも春から初夏にかけて、また秋季に発見される可能性もおおいに期待できると思われる。

末筆ながら、報告するにあたり色々とご尽力いただいた倉敷昆虫同好会の重井博顧問、小野洋、青野孝昭、中村具見の各氏に感謝の意を表したい。

#### 参考文献

- 1) 福田晴夫ほか(1982) 原色日本蝶類生態図鑑(Ⅲ)
- 2) 難波通孝(1993) 岡山県内でサツマシジミ、月刊むし(259):30-31

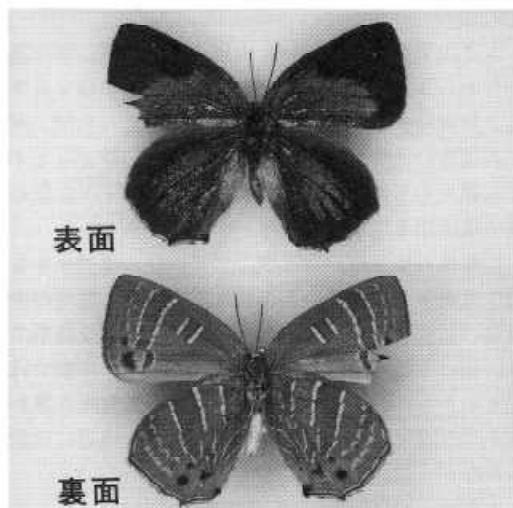
### おとしふみ

#### 倉敷市街地にてウラミスジシジミを採集

津田和良

ウラミスジシジミ(ダイセンシジミ)は、岡山県においては主として吉備高原以北に分布し、南部からの報告はほとんどないようである。しかし、筆者は下記のとおり倉敷市街地において1♂を採集しているので、報告しておく。

1♂、倉敷市阿知三丁目、22. VI. 1994



両方の尾状突起はなく、汚損した個体で、御国幼稚園前の歩道上に翅を閉じて静止しているところを指で胸部を押さえて採集した。時刻は午前8時40分頃。近辺に本種の食樹がまとめてある場所は、鶴形山(約200m)や向山(約1km)等がある。こういった場所から飛来したものかどうか不明であるが、発生した場所を今後の調査研究の対象としたい。

最後に、発表を勧めて下さった青野孝昭氏と標本写真を撮影していただいた広瀬正明氏に深謝します。

#### 参考文献

- 倉敷昆虫同好会(1972) 岡山県の蝶、すずむし(108):20  
倉敷市立自然史博物館(1986) 岡山県のチョウ  
(〒700 岡山市表町1-9-50)

#### 山陽町の蝶数種について

尾関啓吉

ここ数年来、採集といえば、つい足が県北に向いてしまうのであるが、1994年は自分の住む山陽町内での採集を試み、それなりの成果もあったので、報告しておく。採集者は全て筆者である。

1. ミヤマカラスアゲハ  
1♀(春型)、29. IV. 1994、山陽町西中  
1♀(夏型)、17. VI. 1994、山陽町西中、採集後放帰(新鮮な個体だったが、破損していたため)  
高倉山(485m)の山腹、山麓一帯に生息しているようだ。
2. ミドリシジミ  
1♂、3. VI. 1994、山陽町西中  
ヤマハンノキをたたいて、飛び出したものを採集した。赤磐郡では初記録ではないかと思われる。今後採卵を試みてみたいと思う。
3. イシガケチョウ  
3♀、3~29. VI. 1994、山陽町西中  
かなりの個体を目撃した。また、イヌビワより幼虫を採集し、飼育の結果5♂を得ている。偶産種かどうかは、数年の経過をみないと分らない。  
(〒709-08 赤磐郡山陽町桜が丘西1-14-31)

## 岡山県のカラスシジミ分布調査記録

中村 具見\*, 渡辺 和夫\*\*

## はじめに

*Fixsenia w-album fentoni* カラスシジミは、北海道、本州、四国、九州に分布しており、一般にその産出は局地的とされている。北海道では低地から山地に広く分布しているが、本州では、東北地方から中部地方にかけてやや局地的に分布し、近畿、中国地方ではさらに局地的傾向が強まるとされている（猪又、1985）。また、四国でも産地は局限されるが、九州では福岡、大分、熊本、宮崎、鹿児島の各県の低地にまで広く分布しており、日本列島の両端で分布密度が濃いという特異な分布を呈している。

岡山県においても、かつては東栗倉村後山での記録（倉敷昆虫同好会、1972）が唯一のものであり、産出はかなり局地的なものと考えられていた。ところが、近年になって山地性のハルニレやオヒョウだけでなく、植栽されたスモモに依存する個体群の存在が判明し、調査対象が広がったことから、吉備高原の西南部から中国山地にかけての広い地域において本種が生息していることが明らかとなった。

概略は既に報告している（中村、1991）が、生態に関する知見も含めて詳しい調査結果については未整理のままであった。最近では本種の調査をほとんど行っておらず、環境の変化等で既に生息地が消滅したところもあると思われる。そこで、以前の記録が中心であるが、あらためて今後の調査の参考とするため、調査結果を取りまとめて報告することとした。

報告にあたり、分布資料を提供していただいた近藤要一、林博之、難波圭吾の諸氏には厚くお礼申し上げる次第である。

## I 分布調査結果

分布調査の結果を、植生や地形等付近の自然環境、各ステージの確認時における若干の生態的知見等を交えながらまとめると、以下のとおりである。

データは市又は郡単位に整理して、地名の次に記録地点の標高を、また幼生期の記録にはカッコ内に得ら

れた食樹を記すとともに、調査時点で明らかに寄生と分かる場合は、その旨明記した。採集者名は、次のとおり略記した。中村具見〔N〕、渡辺和夫〔W〕、近藤要一〔K〕、林博之〔H〕

## 〔阿哲郡〕

神郷町油野・重藤（320m）、蛹1ex., 前蛹2exs.（ハルニレ）、29. V. 1988, N・W; 1♀, 25. VI. 1989, N

JR伯備線足立駅の北から三室川の流れに沿って油野方面に至る道べりには、現在は道路の改修工事により、河岸がコンクリート護岸になったため姿を消してしまったが、以前は細い道路の両側に点々とハルニレが生えており、このなかで、道沿いで調べることでできたハルニレより得られたものである。ハルニレは樹皮の皺が深くて多いえに根際には苔類等がよく付着しており、スモモに比べると蛹や前蛹を探すのはなかなか難しいが、わずかながら採集することができた。

成虫も同じ場所で採集したもので、ビーティングにより叩き出してもなかなか低所へ下りてこないため、わずか1♀を得たのみである。概して成虫の個体数はあまり多くないよう思えた。

神郷町油野・重藤（350m）、蛹3exs.（スモモ）、29. V. 1988, N・W; 蛹2exs.（スモモ）、4. VI. 1989, N

上記の産地よりも少し上流の油野重藤地区の集落付近で、人家の脇にあるスモモより採集したもの。

哲多町田淵・新田（500m）、終令幼虫1ex.（スモモ）、5. V. 1985, K

荒戸山の西南側山麓にある廃屋の庭に植栽されていたスモモより得られた。

哲多町矢戸・宗本（300m）、蛹殻1ex.（スモモ）、2. VI. 1985, W

哲多町矢戸・内井谷（330m）、1ex.目撃、9. VI. 1985, N; 蛹9exs.（スモモ）、19. V. 1990, W

上記の2産地は、成羽町坂本から峠を越えて哲多町側へ入り、本郷川に沿って矢戸方面にゆるやかに下る途中、いずれも県道沿いの小さな谷筋にある人家の周辺や山裾に植栽されたスモモから採集したもの。

1990年の記録は、スモモの横枝基部にかけられた電線の束の隙間で蛹化していたものを得た。

\* 〒719-11 総社市真壁1048

\*\* 〒719-11 総社市三輪203

哲多町花木 (240m), 前蛹 1 ex. (スモモ), 24. V. 1986, N

吉備高原の台地上にある久保井野地区から本郷方面に下る途中、道沿いの水田の脇に植栽された樹高 3 m 程度の小さなスモモの根際で、幹に絡みついた枯草に付着しているものを採集した。

#### 〔新見市〕

新見市足立 (370m), 1 ♀, 26. VI. 1988, N

町並みのはずれの山腹にある、日当たりのよい畑の脇に植栽されていたスモモから飛び出したもの。

新見市足立～下吉川 (370m), 1 ♀, 26. VI. 1988, N

足立から吉川方面への道は、JR伯備線のガードを抜けると直ぐに急斜面をつづら折りの登りとなっている。この付近の斜面には、比較的自然度の高い落葉広葉樹林が残されており、道べりだけでも大木を含めて数本のハルニレが自生している。

当日、このハルニレのかなり高い梢付近を飛び交う本種らしき個体が散見されたので、ネットの届く範囲をピーティングしていたところ、ようやくにして飛び出した 1 ♀ を採集することができた。

新見市畠原～足立 (310m), 2 exs. 目撃, 26. VI. 1988, N

県道に沿って流れる高梁川支流の西川の河岸に自生するハルニレを探し、2 個体を確認することができたが、夕方だったせいか叩き出すとそのまま飛び去ってしまった。

新見市畠原 (300m), 1 ♀, 25. VI. 1989, N

やはり西川の河岸に自生するハルニレより得たもので、点々と自生するハルニレをすべて調査した訳ではないが、九の坂峠を越えたあたりから足立にかけての西川流域には、やや普遍的に分布しているように思われる。

新見市草間切畑 (410m), 終令幼虫 7 exs. (スモモ), 3. V. 1985, N・W; 蛹 1 ex. (スモモ), 2. VI. 1985, N; 中令幼虫 1 ex. (スモモ), 4. V. 1987, W

草間台地の西端に位置する草間切畑地区は、谷底にある井倉の街から石灰岩の急斜面を登りきった台地面上にあって、ナラガシワが主体の落葉ケルクス林が各所に点在しており、ヒロオビミドリやウスイロヒヨウモンモドキの生息地として県内では古くから採集者が多く訪れている場所である。したがって、齊藤 (1983) などにより、こうしたチョウの副産物として吉備高原地域としては早くから本種が記録されている場所である。

1985年5月3日に、渡辺 (1984) がかつて成虫を採集したナラガシワ林の傍にある畑の隅に植えられたスモモから幼虫を得ることができた。これらの幼虫はすべて終令で、いずれもよく伸びた枝先の先端部付近に静止していた。また、蛹は近くの人家の庭に植栽されたスモモの幹に付いていたものを得た。

新見市草間大原 (440m), 終令幼虫 5 exs. (スモモ), 5. V. 1985, N; 蛹 6 exs. (スモモ), 2. VI. 1985, N・W

人家や道べりの畑の脇などに植えられたスモモから得られた。特に、1985年6月2日に蛹を採集した民家の庭のスモモは比較的古い大きな木であり、樹皮の裂目だけでなく材が腐って中空状になった枯枝の内部 (樹皮の裏側) や、さらに根元から 2 m くらい離れた軒下の板の縫ぎ目に蛹化している個体も認められた。



スモモ朽木の中空部で蛹化している蛹

新見市豊永佐伏・岩本 (320m), 蛹殼 1 ex. (スモモ), 9. VI. 1985, W

日当たりのよい西南向き斜面の墓地の脇に植えられた小さなスモモの幹の分岐部で、寄生蜂羽脱後の蛹殼を確認した。

新見市豊永宇山・先村 (390m), 前蛹, 寄生蛹各 1 ex. (スモモ), 24. V. 1986, N

人家のすぐ脇の畑に植えられたスモモの目の高さあたりの太枝分岐点で前蛹を、また横枝の先端部裏面で



スモモの幹の裂目のわずかな隙間にいる前蛹

既に寄生されて赤褐色になった蛹を得た。

新見市豊永佐伏・森国 (430m), 1♂ 1♀, 22. VI.  
1986, N

人家の庭園に植栽されたやや大きなスモモが目についたので、所有者の許しを得てビーティングしたところ数頭が飛び出し、そのうち1♂ 1♀を得た。時期的にはやや遅かったようで、いずれも汚損していた。

新見市土橋・田屋 (390m), 終令幼虫 5 exs. (スモモ), 9. V. 1987, N

水田の中に1本だけ孤立して植えられたスモモの枝先付近を調べたところ、すぐに葉裏にいた脱皮直後の終令幼虫を発見できたので、後は太枝の先端部をネットでくつろぎ採集した。なお、この場所から少し離れた山裾にある廃屋のスモモも調査したが、こちらでは全く発見できず、発生木はやや限定されるように思えた。

#### [真庭郡]

川上村明連渓谷 (620m), 3令幼虫 1 ex. (ハルニレ),  
29. IV. 1985, K; 成虫多数目撃, 3. VII. 1988,  
N・Wほか

明連渓谷は、途中から谷幅が狭まって、渓流沿いにトチノキやハルニレの多い渓谷林が残されており、既に岸 (1984) や渡辺 (1985) により本種が記録されている場所でもある。

1985年は、早春にスギタニルリの採集に訪れた時に、たまたま手近にあったハルニレの大木の下枝を調べたところ、やや先端よりの細枝の分岐点下部に静止していた幼虫を発見することができた。この幼虫は、中村が持ち帰り、シャーレ内にハルニレとスモモの両方を入れて飼育を試みたところ、ハルニレの方しか食さなかった。

また、1988年7月3日は倉敷昆虫同好会の一泊調査会で、早朝活動するゼフを求めて午前6時過ぎからどんどんとした曇り空の中を天候を気にしながら訪れたところ、午前7時頃から雨の降り出すまでの約30分間にわたり、ハルニレの梢や枝先などの樹冠一帯を目まぐるしく飛び交ったり、近くの低木の上を含めて、広い範囲で一定のコースを飛翔する個体が多数目撃され、早朝の短い時間ではあるが、きわめて活発に活動する習性が観察できた。

なお、敏速に飛んでなかなか静止しないため、難波圭吾氏がかろうじて飛翔中の個体を1♂採集したのみであった。

川上村本茅部・熊谷 (750m), 1♂, 5. VII. 1985,  
H

熊谷から野土路に登る途中の沢付近に自生してい

るオヒョウから得られたもの。県下では、オヒョウの分布は局限されており、蒜山一帯でもほとんど見ることはないが、この付近では谷筋に数本の自生が認められる。なお、県下においてオヒョウから確認されているところとしては哲西町日長谷 (難波, 1978) がある。新庄村高下 (570m), 2♂ 1♀, 2. VII. 1988, N・W; 2♀, 27. VII. 1988, W; 3♂ 2♀, 1. VIII. 1989, W

明連渓谷同様、高下の集落のはずれあたりから上流にかけて、渓流べりにハルニレが点々と自生している。

1988年7月2日は、午後3時~5時にかけて調査したもので、夕方近くになると樹冠を定方向に飛翔する個体がいくつも見られたが、活発に飛翔するため採集はなかなか困難であった。全般的に個体数は少くないようと思われる。なお、午後4時頃に交尾中の1ペアを採集しているので、配偶活動時間の目安となるかもしれない。

付近一帯にハルニレが多いが、本種の見られる木はやや限定されるよう、特定の木に限って梢上を飛び交う個体が見られ、活動時間帯でありながら全く成虫の認められない木も少なくなかった。

新庄村土用 (690m), 1♂, 1. VIII. 1989, W

中国電力の土用ダムに近い渓谷のハルニレで、午前11時頃、枝先を占有する個体を得たもの。高下と同じく、渓谷にはハルニレが多く自生しているが、こちらでは本種はあまり多くない。

久世町目木・大内原 (180m), 蛹 2 exs., 前蛹 1 ex. (スモモ), 18. V. 1986, N・W

久世町目木・橋本 (160m), 蛹 1 ex. (スモモ), 18. V. 1986, W

いずれも国道181号線沿いの人家の脇などに植えられたスモモから得られた。特に、後者の場合、近くに樹林のない集落の一角であり、本種の移動性や生息環境を考えるうえで興味深い。

#### [苦田郡]

上齊原村小林 (740m), 1♂, 29. VI. 1985, W; 4♀, 6. VII. 1985, N

日当たりの良い渓流の岸辺に生えているスモモから飛び出したもの。

上齊原村宮ヶ谷 (780m), 3♀, 6. VII. 1985, N; 2♀, 9. VII. 1985, W

宮ヶ谷の集落の最奥部にある廃屋の周りに植えられたスモモから飛び出したもの。この付近では、ハルニレが自生していてもよいはずだが、これまでのところ筆者らは確認していない。

奥津町大神宮原 (610m), 2♀, 10. VII. 1988, N;

1♀, 28. VI. 1992, N

大神宮原は泉ヶ山の西側にあたり、付近一帯はかつて大部分が牧場等に開発されたが、高原の沢筋の一部に帶状に伐採を免れた数本のハルニレが残っている。

ここではハルニレはかなり大木であり、採集したのは低所の枝先から飛び出した個体であった。この他に、かなり高い梢上を敏捷に翔ぶ個体もいくつか目撲できた。

奥津町細田 (400m), 蛹 1ex. (スモモ), 6. VI. 1986, W

細田バス停東側の畑に植えられたスモモ古木の下枝先端部付近で、分岐部下面に蛹化していたものを得た。この木は丹念に探してみたが、この他には発見できなかった。

#### 〔川上郡〕

川上町高山・折谷 (470m), 1♀, 18. VI. 1978, N; 7卵 (ハルニレ), 5. XI. 1978, N・K; 終令幼虫 1ex. (ハルニレ), 16. V. 1987, W

この産地は、中村が吉備高原地域で初めて本種を採集した場所である。

小高い石灰岩の露出した丘陵の上にある乾燥した落葉二次林で、アベマキやコナラ、ナラガシワに交じり、数本のハルニレが混生している。似たような雑木林はこの付近にごく普通に見られるが、乾燥した台地だけにハルニレを交えた林は少ないようだ。

1978年6月18日に初めて得た1♀は、林縁のナラガシワの大木でヒロオビミドリ等を探集していた際に偶然飛び出したもので、この時は発生木が不明であった。その後、冬季の調査により成虫を採集したナラガシワの背後の雑木林中にハルニレのあることが分かり、わずかながら採卵することができて、この地でハルニレを食樹として発生していることが判明したものである。

卵が得られたのは大木のかなり上部の枝先であり、また、卵の密度も低く、採卵は容易ではなかった。後に渡辺も同所で別のハルニレの樹幹上にいた終令幼虫を得ている。

川上町高山・上組 (460m), 終令幼虫 1ex. (スモモ), 11. V. 1986, N; 終令幼虫 1ex. (スモモ), 16. V. 1987, W; 1♀, 7. VI. 1987, N; 1♂ 2♀, 14. VI. 1988, N

高山から弥高山方面に向かう途中で、県道下の畑の傍にあるスモモから得られたもの。スモモの木が4m程度と手頃な大きさなので、成虫も幼虫も採集は容易であった。

1987年6月7日に訪れた際は、日中の最高気温が34℃に上り6月としては異常に暑かったせいか、羽化

直後と思われる新鮮な複数の個体が、幹に絡みついたツタ類や周辺の日陰にある下草の葉上に静止しているのが観察された。

また、1987年5月16日に同じ木でムカデに捕食されている終令幼虫を観察している。

川上町地頭・西谷 (150m), 蛹 2exs. (スモモ), 21. V. 1989, W

集落内の人家の庭に植栽された樹高4m程度の2本のスモモのうちの1本から得た。いずれも幹に巻きついたツタ類の地上50cm~1m付近の茎に付着したままの枯れ葉裏面で蛹化していた。

川上町領家・八幡 (110m), 寄生蛹 1ex. (スモモ), 2. VI. 1985, W; 終令幼虫 4exs. (スモモ), 11. V. 1986, N・W; 蛹 4exs. (スモモ), 17. V. 1986, W

県立川上農業高等学校の校庭の北西隅に植えられていた、やや古いスモモの木の幹や太枝の分岐点等から得たもの。ここでは何故か寄生されたものが多く、羽化に至った個体は少なかった。



スモモ枝先分岐点付近にいる前蛹

備中町平川・東安田 (490m), 終令幼虫 1ex. (スモモ), 16. V. 1987, W; 蛹 1ex. (スモモ), 4. VI. 1988, W

水田脇に植えられた樹高4mほどのスモモの根元付近で終令幼虫を、幹に絡んだツタ類の目の高さあたりで茎に付着したままの枯れ葉裏面で蛹を得た。

備中町平川・西安田 (560m), 蛹 1ex. (スモモ), 2. VI. 1985, N; 2♂ 4♀, 15. VI. 1985, N; 2exs. 目撃 (写真撮影), 15. VI. 1986, N

半分日陰になった林縁に生えている小さなスモモの根際付近で、幹に絡んだツタ類の葉裏から蛹を得た。緑葉に付着した茶褐色の蛹が目立ったのが印象的であった。全体の調査を通じて、緑葉での蛹化例はこの1例のみである。

また成虫は、近くの日当たりのよい台地上にある畑の一角に植えられたスモモから得られたもので、小さ

な木にしては個体数も少なくなかった。岡山県の昆虫（倉敷昆虫同好会、1988）に掲載された生態写真は、この地で撮影したものである。

備中町平川・下郷 (460m), 蛹 2 exs. (スモモ), 2. VI. 1985, W; 蛹 1 ex. (スモモ), 3. VI. 1989, W

山裾の林縁に植えられたスモモの根際で得られたもので、いずれも寄生されていた。

備中町平川・小迫通横 (410m), 蛹殻 1 ex. (スモモ), 24. V. 1987, W

畑の脇にある樹高 2 m くらいの孤立木の幹の分岐部で確認した。

備中町布賀・下長谷 (150m), 蛹 2 exs. (スモモ), 3. VI. 1989, W; 蛹 1 ex. (スモモ), 19. V. 1990, W

山裾の畑に植えられたスモモの古木の下枝先端部の下面と、根際に積んでいた瓦の裏側から得た。その後、1993年に再度調査に訪れた時には、このスモモは既に伐られており、付近にある小ぶりのスモモからは発見できなかった。

備中町布賀・黒島 (110m), 蛹 1 ex. (スモモ), 17. V. 1986, W

集落内で県道脇の人家の脇に植えられたやや大きなスモモから得られた。

備中町長屋・向長屋 (130m), 寄生蛹 1 ex. (スモモ), 9. VI. 1985, N; 蛹 1 ex. (スモモ), 19. V. 1990, W

向長屋から木之村方面に登る道脇で、日当たりのよい斜面に植えられたスモモから得られた。

成羽町布寄・木ノ村 (410m), 蛹殻 1 ex. (スモモ), 9. VI. 1985, N; 蛹 1 ex. (スモモ), 31. V. 1987, W

台地上のタバコ畑等の脇に植えられたスモモから得られた。

成羽町小泉・東 (450m), 蛹 2 exs. (スモモ), 5. VII. 1988, N

段々畑の中ほどに植えられたスモモの根際に着生していた、白っぽいキノコのカサの裏面で蛹化していたもの。

成羽町羽根 (330m), 寄生蛹 1 ex. (スモモ), 5. VI. 1988, W; 1 ♂, 14. VI. 1988, N

納屋の傍にあるスモモの木の下に積まれていた木材の裏面に蛹化していたもの。なお、このスモモは葉の形などがウメとそっくりで、最初はウメではないかと思ったが、成虫の時期に訪れて果実からスモモと判明したもの。スモモには園芸品種が沢山あって、葉や幹を見ただけではウメと紛らわしいものも結構あるよう

に思われる。

成羽町吹屋・白石 (450m), 終令幼虫 3 exs., 蛹 1 ex. (スモモ), 19. V. 1990, W

浅い谷筋の入口付近で人家の庭と山裾にスモモがあり、どちらからも得られた。終令幼虫は既に老熟して、褐色になっていた。

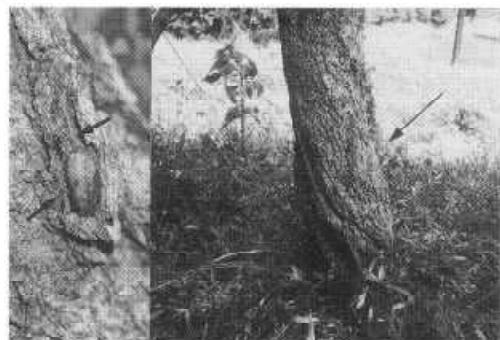
#### 〔高梁市〕

高梁市中井町津々・山際 (430m), 蛹 7 exs. (スモモ), 9. VI. 1985, N・W; 蛹 3 exs. (スモモ), 24. V. 1986, N; 蛹 2 exs. (スモモ), 31. V. 1987, W

山裾の林縁に植えられたスモモから得た。

高梁市宇治町穴田・陰地 (390m), 3 ♂ 1 ♀, 寄生蛹 1 ex. (スモモ), 9. VI. 1985, N・W・K; 蛹 1 ex. (スモモ), 1. VI. 1986, W; 蛹 1 ex. (スモモ), 31. V. 1987, W; 蛹 1 ex. (スモモ), 4. VI. 1988, W; 1 ♀, 14. VI. 1988, N; 蛹 7 exs. (スモモ), 19. V. 1990, W

日当たりのよい丘陵の東向き斜面にある人家の脇に植えられた、スモモとしてはかなり古い樹高 6~7 m はあると思われる木から得られた。1985年6月9日に、初めて訪れた時には目に付いた蛹がすべて寄生されていたので、あるいは既に発生しているのではと思い樹冠をビーティングしたところ、この木だけで計4頭が採集できた。その後も、ここでは適期には必ず蛹や成虫が見られ、確実な発生地となっていた。なお、1986年6月1日には、蛹にアリの一種が訪れているのを観察している。



スモモ樹皮の瘤みで蛹化した蛹と蛹が付着しているスモモの幹 (蛹の隣にアリが見える)

高梁市宇治町穴田・丸山 (320m), 蛹 1 ex., 蛹殻 1 ex. (スモモ), 9. VI. 1985, N・W

高梁市宇治町本郷・笛尾西 (360m), 蛹 2 exs. (スモモ), 31. V. 1987, W; 蛹 3 exs. (スモモ), 4. VI. 1988, W; 蛹 5 exs. (スモモ), 4. VI. 1989, W; 蛹 3 exs. (スモモ), 19. V. 1990, W

山際にある樹高4mほどのスモモと、すぐ近くの人家の庭に植えられた樹高2mほどのスモモから得た。1987年に最初に確認して以来、4年間継続して訪れてみたが、毎年確実に発生していた。

高梁市松原町松岡・畑谷(280m), 蛹1ex. (スモモ), 14.V. 1989, N.

成羽から松原町春木方面に登っていく途中の畑谷付近で、道べりの畑との境に植えられた小さなスモモを調べたところ、地面に近い横枝の裏面で蛹化していた個体を得た。



人家脇の道と畑との境に植栽されたスモモ

高梁市松原町松岡・陣山(440m), 蛹1ex., 前蛹7exs. (スモモ), 14.V. 1989, N

吉備高原の平坦面にある陣山付近で、牧場の境界に植えられたスモモのやや大きな木が目に付いたので、調べたところ、地上1m付近までは牛糞で汚れたりして何も発見できなかったが、それよりも上部の幹の裂け目や枝の分岐、木質部が腐って中空状になった枯枝の内側などから蛹や前蛹を探集することができた。

#### [上房郡]

北房町下中津井・横内(410m), 1♂2♀, 寄生蛹1ex., 9.VI. 1985, N・W

人家の庭に植えられたスモモの木から得た。

北房町下呂部・新田(380m), 1♂4♀, 9.VI. 1985, N・W

集落内で雑木林との境付近に植えられたスモモの木から得た。樹高3m程度であまり大きな木ではないが、ちょうど夕方の活動期であったせいか、活発に翔ぶ個体を見ることができた。

北房町阿口・原茂(410m), 終令幼虫3exs., 前蛹1ex., 蛹1ex. (スモモ), 19.V. 1991, W

集落内の人家の庭に植えられた2本のスモモから得られた。1本は日当たりのよい場所にあって、これから得られたのは前蛹もしくは蛹であったが、人家の東側で午後には日陰になる場所に植えられているスモモから得られたのは、まだ老熟していない緑色の幼虫で

あった。食樹のある環境条件によって生育のスピードに差があるのかも知れない。

なお、前蛹に小型のアリの1種(2exs.種名未確認)が訪れていたのを観察している。幼虫や蛹を訪れていたアリの観察例は、前記の高梁市宇治町穴田の例と当地の例の2例のみである。

有漢町上有漢・石寺(280m), 終令幼虫1ex. (スモモ), 11.V. 1991, W

石寺バス停付近の畑に植えられていたスモモの若い木の枝先付近で摂食中のものを得た。すぐ近くにあるスモモの古木も調べてみたが、こちらからは発見できなかった。

#### [小田郡]

美星町黒忠・八日市(370m), 終令幼虫11exs., 3令幼虫2exs. (スモモ), 11.V. 1986, N・W; 蛹7exs. (スモモ), 4.VI. 1988, N

八日市は、美星町西部の吉備高原面の上にある集落で、ここでは2か所で得られた。まず、1986年5月11日には、国道313号線へ下る途中の道路べりの南向き斜面で、段々畑に一列に植えられた樹高3~4m程度のあまり大きくなかった3本のスモモを調べたところ、幹上を歩行する終令幼虫が発見できた。既に老熟して体色が褐色になったものばかりで、おそらく蛹化場所を求めて移動していたものと思われる。比較的若い小さな木ばかりにしては結構個体数が得られた。



スモモの幹を下方に移動している老熟幼虫

1988年6月4日に訪れた際には、上記の産地は根際の下草がきれいに刈られており、蛹を1個体見つけただけで、成虫等は全く発見できなかったため、付近の別の場所を探したところ、人家の庭のスモモから1個体、近くの果樹園の隅にあるスモモから計5個体を得ることができた。

この果樹園にあるスモモは、北向き斜面の農道の下にあって、幹から下は石垣の陰になって日当たりが悪く、また周囲には下草がよく茂ってやや湿潤な環境となっていた。地上1m付近に、朽ちて材がボロボロに

なり内側が空洞化した枝とこれに青色のビニールシートの切れはしが引っ掛かっており、朽木の内部やビニールの隙間等で蛹化している個体が得られたが、周りの樹皮上ではまったく発見できず、暗所を好んで蛹化する習性がうかがえた。

吉備高原の南部に位置するこの付近でも、個体数は意外に少なくないようである。

美星町大倉・木舟 (330m), 前蛹 1 ex. (スモモ), 11. V. 1986, W

矢掛町方面に下る道べりの人家の脇に植えられた貧弱なスモモから得られたもの。あまり好適な環境とは言えず、またこの付近ではこの他には全く発見できなかった。

#### [井原市]

井原市野上町刈屋原 (240m), 蛹 1 ex. (スモモ), 17. V. 1986, N

井原市北部の丘陵地に位置する野上町付近で、やはり日当たりのよい南向き斜面で、県道のすぐ上の畠の脇に植えられた小さなスモモの、地上15cm位の下草に被われた根際から得られた。ちょうど脱皮したばかりの、薄いピンク色の蛹であった。



スモモ根際の樹皮上で蛹化直後の蛹

#### [御津郡]

加茂川町高富・宮浦 (400m), 終令幼虫 4 exs. (スモモ), 6. V. 1990, N

加茂川町北部の吉備高原面上にある高富の開拓田地に造成された牧場の中で、1本だけ孤立して植えられたスモモの枝先付近から得られた。今回の吉備高原地域における調査で確認できた産地の中では、もっとも東部よりの記録である。

加茂川町福沢西 (300m), 終令幼虫 2 exs. (スモモ), 11. V. 1991, W

集落の北側の山裾にある水田脇に植えられたスモモの枝先付近をネットでくつて採集した。

## II 既知産地

これまでに文献等により報告されている産地は、以下のとおりである。1972年に取りまとめられた「岡山県の蝶」(倉敷昆虫同好会編)では、英田郡後山の記録が唯一の確実なデータとして記載されているだけであったが、その後新産地が相次いで記録されている。大半は中国山地帯での記録であるが、最近になって吉備高原地域での採集記録も報告されている。

英田郡東粟倉村後山 (美作虫の会, 1968)

新見市上市九ノ坂 (渡辺, 1973)

阿哲郡神郷町三室 (難波, 1973)

新見市足立 (渡辺, 1975)

阿哲郡哲西町日長谷 (難波, 1978)

真庭郡新庄村大原 (難波, 1978), (難波, 1983)

真庭郡新庄村高下 (難波, 1983)

新見市草間切畑 (齊藤, 1983), (山本, 1983), (山本, 1984), (三宅, 1984), (渡辺, 1984)

新見市畠原 (山本, 1984)

真庭郡川上村明連 (岸, 1984), (渡辺, 1985)

真庭郡久世町山生 (難波ほか, 1985)

岡山県草間台地 (佐々木, 1985), (佐々木ほか, 1985)

真庭郡新庄村野土路 (竹内, 1989)

阿哲郡哲多町花木 (難波ほか, 1992)

苦田郡加茂町庄原 (難波, 1993)

上房郡有漢町神明 (若槻・吉田, 1994)

上房郡有漢町金倉 (若槻・吉田, 1994)

上房郡北房町野々倉 (若槻, 1994)

## III 調査結果の概要と考察

今回調査した地域は、主に吉備高原の西半部から中国山地にかけての地域である。当然のことながら岡山県全体をカバーしている訳ではないので、吉備高原の東部地域のように未調査と思われる地域がかなり残されており、今後こうした地域のより詳しい調査が必要であるが、今回の調査結果とこれまでの記録を踏まえて、現時点での県下における分布の概要と食樹との関連から特に注目すべき点について記しておくことしたい。

### 1 分布の概要

今回の調査により新たに確認できた分布地 (●印) 及び既知産地 (○印) をプロットすると図-1のとおりである。

上述のように未調査と考えられる地域がかなり残されているため、岡山県全体の分布を考察するには資料

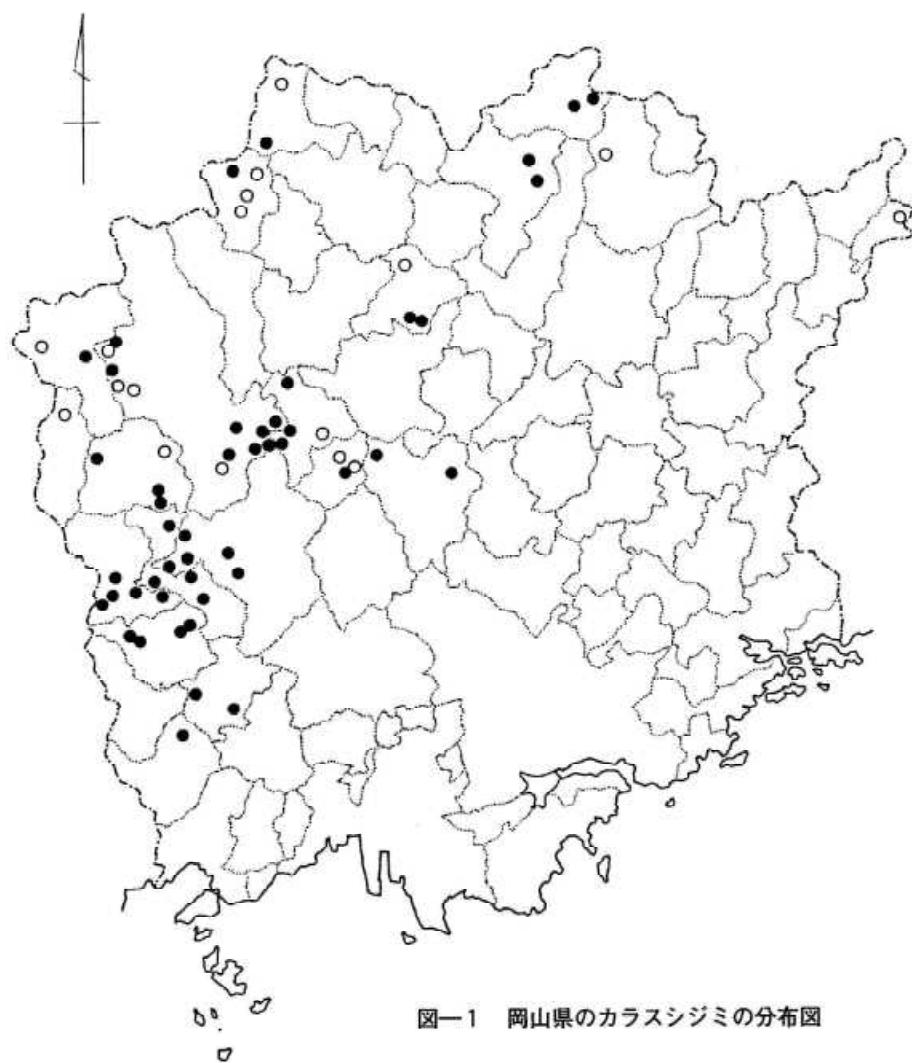
的に十分とは言えないが、この図からみると、大雑把に県の南西部、井原市付近から美星町を通って高梁市、有漢町、加茂川町付近を経て北上し、中国山地に至るラインを南限として、それよりも北部よりの山地帯を中心とした地域が本種の分布域となっており、従来考えられていたよりもはるかに広い範囲に分布していることが分かる。

この分布域のなかでも、北部の中国山地帯は本種の基本的な食樹とされるハルニレが県内ではもっとも多く自生している地域であり、古くから本種の产出が知られていたところである。これまでの調査によると、採集記録の示された地点はあまり多くないが、新庄村や川上村などの冷温帶下部に位置する脊梁山地の渓谷地帯などにはハルニレが多く、県下における代表的な生息地となっている。また、新見市北部や神郷町付近

でも、西川流域の渓谷沿いなどにハルニレが比較的多く自生しており、本種も連続的に記録されていて、やや普遍的に分布しているものと考えられる。

なお、神郷町、真庭郡新庄村（難波、1983）、苦田郡奥津町、同上齊原村などでは、集落の周辺でスモモを食樹とする産地も見つかっている。

中国山地帯における生息地の標高は、地形的には吉備高原地域との境界をなす盆地帯に位置する久世町付近のような低地で160m～180m程度、新見市北部から神郷町あたりでは凡そ300m～400m、真庭郡の川上村や新庄村付近で600m～750m、上齊原村の恩原高原ではさらにやや高く700m～800mとなっており、垂直分布の幅はかなり広くなっている。なお、凡そ標高700m以上の脊梁山地に優占するブナ・ミズナラの樹林帯に入ると、概してハルニレが衰退するため、調査



図一1 岡山県のカラスシジミの分布図

不足の面もあるが、これらの地域からは今のところほとんど確認されていないようである。この点は、近隣の鳥取県大山中腹のブナ林において本種をやや普遍的に産出することと比較して、生態的な分布状況にやや違いが認められるように思われるが、あるいは伐採等により自然林が減少して既に生息地が失われてしまったとも考えられる。

次に、吉備高原地域以南では、従来は新見市草間や阿哲郡哲多町花木など、北西部の一角に限られた産地が知られているだけであったが、最近では上房郡有漢町（若槻・吉田、1994）など、徐々に新しい産地が発見されてきている。

筆者らの調査で、多くの産地を確認できたのは、川上郡備中町、成羽町、川上町付近から高梁市西部にかけての地域、及び阿哲郡哲多町から新見市南部の草間・豊永台一帯とこれに隣接する上房郡北房町等、いわゆる吉備高原地域の西北部一帯である。この付近は、石灰岩地形を中心に、ゆるやかな起伏をもった平坦面とこれを刻む深い渓谷という吉備高原の地形的特徴がもっとも顕著にあらわれた地域であり、日当たりのよい乾燥した高原面を中心に、渓谷地帯の一部も含めて各所で産地を確認することができた。

この他に、吉備高原南部では小田郡美星町や井原市北部付近、中部では有漢町、加茂川町付近でも、高原地帯に点在する集落とその周辺において確認することができて、吉備高原地域では西北部を中心にかなり広い範囲に分布していることが明らかになった。

なお、もっとも南部よりの井原市では、わずか1か所の生息地を確認できただけで、やはり生息密度は南部にいくに従い、低くなるようである。

この吉備高原地域では、そのほとんどが人家の庭や畠などに植栽されているスモモから得られたものであり、もともと稀にしか自生が認められないハルニレやオヒヨウがあっても、本種を見つけることができなかつたところの方が多いかったくらいである。

生息地の標高をみると、渓谷の底部にあたる盆地に位置する川上町領家や備中町黒鳥付近のように、凡そ100m付近から、広島県境に近い高原地帯の備中町安田（560m）あたりまで、やはり垂直的な分布の幅は広くなっている。大半の生息地は300m～400m前後の地域に集中している。

岡山県の西部で南偏し、吉備高原の中央部をほぼ南西から北東に横切り、東部で中国山地よりに偏るという南西から北東に伸びる分布の南限ラインは、吉備高原が西部よりもっと標高が高く、東に行くに従って徐々に低くなると同時に東部では渓谷が広くなっている。

高原状の地形が希薄になるという地形的条件や、これに伴い年平均気温の等温線も近似のラインを示すこと等から、県内では一般に山地性とされる多くの種にある程度共通した分布パターンであり、標高差に基づく気温の地理的な変化等の環境条件を直接的に反映したものと考えてよいように思う。

## 2 食樹の分布との関連

吉備高原地域にはもともとハルニレやオヒヨウは稀にしか自生していないという点もあるが、分布調査結果に示したように、ごく一部でハルニレから得られただけで、ほとんどの産地は集落の人家や畠の周辺にあるスモモの調査により確認できた点が注目される。

スモモはもともと中国原産の植物で、わが国には古くから渡来して広く果樹として栽培され、一部には野生状態になっているところもあるとされている（牧野、1961）。県下においても各所で広く植栽されており、特に農村や山間部の人家の周辺ならばどこでも比較的普通に植えられている植物といってよいし、最近では畠や牧草地の傍らに植栽されたまま放置状態のものも見受けられるようになっている。しかし当然のことながら、スモモがあっても本種はどこにでも見られるわけではない。

そこで、本種の分布を考察するにあたり、全国的にみて本種の基本的な食樹とされる *Ulmus davidiana* ハルニレや *Ulmus laciniata* オヒヨウなどの分布等を合わせて考えながら検討してみることとした。

県下には、ニレ属 (*Ulmus*) の樹木は3種分布している。このなかで、西日本にしか分布しない *Ulmus parvifolia* アキニレは平野部から低山地にかけての落葉二次林においてごく普通に見られるが、これまでに本種の食樹として確認された例はない。次に、ハルニレと西日本では稀にしか見られないオヒヨウの分布であるが、これらの樹種は県下では一般に目につくことの少ない、どちらかと言えば珍しい木であり、その詳しい分布を示したものはないようである。そこで、筆者らがこれまでに県下各地で実際に自生を確認している地点（カッコ内は標高）を示すと下記のとおりである。

### *Ulmus davidiana* ハルニレ

- ・苦田郡加茂町倉見庄原 (740m)
- ・苦田郡鏡野町越畠～花知仙 (640-680m)
- ・苦田郡奥津町大神宮原 (610m)
- ・苦田郡富村富西谷白賀渓谷 (460m)
- ・苦田郡富村富西谷大倉 (400m)
- ・真庭郡八束村美田野 (460m)
- ・真庭郡川上村上福田 (470m)

- ・真庭郡川上村明連渓谷 (600-630m)
- ・真庭郡新庄村高下 (570m)
- ・真庭郡新庄村大原～土用 (600-700m)
- ・真庭郡勝山町神代西 (500m)
- ・阿哲郡神郷町下油野～重藤 (320-340m)
- ・阿哲郡哲西町日長谷 (540-560m)
- ・阿哲郡哲多町花木中組 (300m)
- ・阿哲郡哲多町矢戸無明谷 (300m)
- ・新見市足立～下吉川 (340-370m)
- ・新見市吉川 (490m)
- ・新見市上市畠原 (300m)
- ・新見市豊永佐伏本村 (350m)
- ・新見市豊永佐伏藏内 (420m)
- ・新見市豊永赤馬 (290m)
- ・川上郡備中町西山板橋 (300-310m)
- ・川上郡川上町高山 (470m)
- ・高梁市中井町西方上野 (250m)
- ・上房郡有漢町上有漢茶堂 (210m)
- ・後月郡芳井町東三原太刀洗 (580m)

#### *Ulmus laciniata* オヒヨウ

- ・英田郡西粟倉村若杉原生林 (950m)
- ・真庭郡川上村本茅部熊谷 (750m)
- ・阿哲郡哲西町日長谷 (540-560m)
- ・川上郡備中町前谷 (230m)
- ・川上郡川上町芋原 (520m)

県内では、アキニレ以外のニレ属樹木2種はいずれも分布が限られるよう、南部の瀬戸内沿岸地域ではこれまでにまったく見たことがなく、吉備高原地域よりも北で確認しているだけで、いずれも標高約200m以上の地域である。このうち、大部分はハルニレであり、オヒヨウは局限された地域でわずかに見られるにすぎない。またハルニレの生育環境をみると、中国山地帯では一般に渓谷や沢筋に集中して見られる場合が多いが、吉備高原地域では渓谷だけでなく、明るい乾燥した高原の雜木林中に自生するものも多く、自生地の環境はより変化に富んでいるように思われる。

これらの産地を図示したものが図-2である。

すべて筆者らが県内各所で偶然に発見できた限られた確認例であり、これ以外にも多くの自生地があるはずであるが、この分布図がある程度は本来の分布状況を反映したものと想定して、以下この図を前提として考えていくこととした。

図-2に示したように、これらニレ属2種は、県の西部で吉備高原の中央部付近まで分布しており、東部では中国山地に限られるよう、概ね南西部から北東部に至る線の北西側で確認されている。これをみると、



図-2 ハルニレ及びオヒヨウの分布図

図-1に示したカラスシジミと上記のハルニレ等の分布がほぼ似たような傾向を示していることがうかがえる。しかも、チョウの分布域の方がハルニレ等の食樹の分布域よりも広がっていることが分かる。

全国的にみると、カラスシジミの生息地はニレ科の食樹、特にハルニレの分布とよく一致するとされている（福田ほか、1984）。一方、スモモは有史以降にわが国に持ち込まれた栽培植物とされており、本来その自生はなかったものと考えると、カラスシジミが二次的に食性を転換した結果、新たに獲得した食樹と考えられる。実際にスモモの生えている環境をみると、すべて人家の庭や畑の中、山裾の草地など、人為的な要素の濃い場所ばかりである。

こうした点を考慮すると、もともとはハルニレやオヒヨウを基本的な食樹としながらも、これらの樹種から二次的に食性をスモモに転換していくことで分布を維持し、また場所によっては生息地の拡大を図ってきたように考えられる。もっとも、種の形成にも関わるような長い時間を経て固定された食樹から、きわめて短い間に全く未知の食樹を一気に獲得するものとは考えにくく、本種の幼虫が野外で稀にズミやエドヒガン等から得られていることや、同属のリンゴシジミがエゾノウワミズザクラやシウリザクラ等のバラ科植物を食樹としている（福田ほか、1984）こと等を考慮すると、本種が潜在的にバラ科の樹木に対する食性を具えていたとも考えられるが、いずれにしてもどのような形で食性転換が行われたのか興味のあるところである。

ところで、県下でスモモから本種が確認されたのは、

真庭郡新庄村高下における難波（1983）の報告が初めてであるが、その後の確認例はあまり報告されておらず、スモモに関してはそれほど調べられていなかったようと思う。

今回の調査結果をもとに、食樹に関して地域別にその状況をみると、中国山地帯での記録はその多くがハルニレで得られたもので、上齊原村や奥津町をはじめ、新見市の北部、吉備高原地域との境にあたる久世町など、いくつかの産地ではスモモからも発見されている。

中国山地帯ではやはりハルニレ林が調査の主体となりがちで、特にスモモに力点をおいて調べた訳ではないので調査が不十分な点は否めないが、例えば奥津町や富村のようにある程度スモモに的を絞って集中的に調査したにもかかわらず、ほとんど発見できなかった地域もあり、中国山地帯ではハルニレに比べるとその利用度は概して低いのではないかと考えられる。

この点は、中国山地帯では渓谷沿いなどにハルニレの良好な生息環境がある程度残されている等、本来の食樹であるハルニレ類が吉備高原地域に比べて広範かつ多く自生しており相対的に密度が高いことから、二次的な食樹としてのスモモがそれほど重要ではないのではとも考えられるし、さらに、一般的には山地帯にあるハルニレ林と集落周辺にあるスモモとがやや隔離されていること等も、スモモの利用度が低い一因ではないかと考えられる。

吉備高原地域では既に述べたように、スモモから得られた地域がほとんどであり、既知産地の場合も大半はスモモから得られているよう、ハルニレ等の本来の食樹が稀にしかないこの地域では、スモモに依存して広く分布しているものと考えられる。また、この地域ではスモモで生息が確認された場所の近隣にハルニレの自生地があつても全く確認できなかった例も何か所かあって、いったんスモモに食樹を転換すると、本来の食樹であるハルニレよりも選好度が高いように思われることは、集落の周辺が主な生息地となっている吉備高原地域と、主としてハルニレの自然林に生息する中国山地帯との生息環境の違いとともに注目してよいと思う。

今回の調査を通じて、本種の生息地が一般に局地的であることの他に、成虫の発生期間がやや短いこと、活動期を除くと日中は概して不活発なこと、ハルニレは大木が多く樹冠全体を調べるのはやや困難なこと、またスモモのある人家の周辺はあまり調査対象とならないことなどから、一般に目に触れにくいことの一因となっており、実際の分布よりも確認された産地が少なく、稀な種とされてきたように思われることも指摘

しておきたい。

なお、最近の嗜好の変化等を反映したものかどうかわからないが、農家におけるスモモの植栽が従来ほど重視されなくなっているようで、今回報告した産地中でも既にかなりの地点で伐採されており、人為的環境に依存した本種の生息地も将来的にみると厳しい状況にあるように思われる。

### おわりに

従来、比較的稀な種とされてきたカラスシジミが、吉備高原地域南西部から中国山地帯にかけて広く分布していることが明らかとなった。

特に、本来の食樹であるハルニレやオヒョウだけではなく、栽培植物のスモモを二次的な食樹として獲得してかなり低地においても分布を確認することができたが、どのような形で食性転換を行ったのかについては、今後の興味ある課題といえる。

成虫の生態面の調査と合わせて、むしろ成虫よりも発見の容易な幼虫や蛹等、幼生期の調査により、新たな知見が得られることを期待したい。

### 【参考文献】

- 1) 牧野富太郎 (1961) 牧野新日本植物図鑑 北降館 : 286
- 2) 美作虫の会 (1968) チョウ・カミキリ・ハチ・トンボ分布資料、美作の昆虫 (1)
- 3) 倉敷昆虫同好会 (1972) 岡山県の蝶、すずむし 108: 1-62
- 4) 渡辺 肇 (1973) 1973年に採集した蝶から、すずむし (110) : 20
- 5) 難波圭吾 (1973) カラスシジミを阿哲郡三室で採集、すずむし (110) : 20
- 6) 渡辺 肇 (1975) カラスシジミの採集、すずむし (111) : 16
- 7) 難波通孝 (1978) 岡山県産蝶類に関する知見、すずむし (115) : 18-19
- 8) 北村四郎・村田 源 (1979) 原色日本植物図鑑・木本編II: pp545
- 9) 難波通孝 (1983) 生態写真集 岡山の蝶: pp127
- 10) 斎藤琢巳 (1983) 岡山県吉備高原におけるカラスシジミの記録、月刊むし (154) : 18
- 11) 山本正志 (1983) 新見市とその周辺のチョウ相、すかしば (20) : 35-40
- 12) 福田晴夫ほか (1984) 原色日本蝶類生態図鑑 (III) : pp373
- 13) 山本正志 (1984) 新見市でカラスシジミ卵をスモモ及びハルニレより得たので報告する、みちしる

- べ(1) : 4
- 14) 岸 清巳 (1984) カラスシジミの一産地, みちしるべ(1) : 4
- 15) 三宅誠治 (1984) 新見市草間におけるカラスシジミの採集記録, みちしるべ(1) : 4
- 16) 渡辺和夫 (1984) カラスシジミを草間で採集, すずむし(119) : 18
- 17) 猪又敏男ほか (1985) 大図録・日本の蝶 竹書房 : pp499
- 18) 渡辺和夫 (1985) 川上村明連渓谷のシジミチョウ, すずむし(120) : 2-4
- 19) 難波通孝ほか (1985) カラスシジミの生態に関する知見, 昆虫と自然 20 (14) : 23
- 20) 佐々木浩二 (1985) 岡山県草間台地のチョウ, 備後の蝶(1) : 18
- 21) 佐々木浩二・佐々木宗則 (1985) 岡山県草間台地のカラスシジミ, 備後の蝶(2) : 25
- 22) 倉敷昆虫同好会 (1988) 岡山の昆虫: pp271
- 23) 竹内 亮 (1989) 岡山県・県北地域の蝶相, すかしば(32) : 1-14
- 24) 中村具見 (1991) 岡山県のチョウの分布, 昆虫と自然 26 (1) : 2-11
- 25) 難波通孝・三宅誠治 (1992) 蝶からのメッセージ : pp155
- 26) 難波通孝 (1993) カラスシジミの一産地, みちしるべ(15) : 77
- 27) 若槻匡志・吉田嘉男 (1994) 有漢町の蝶類調査中間報告, みちしるべ(19) : 129-130
- 28) 若槻匡志 (1994) 北房町でカラスシジミを採集, みちしるべ(19) : 133
- 5 新見市土橋田屋 27. V. 1987 羽化
- 6 新庄村高下 1. VII. 1989 採集
- 7 " 土用 1. VII. 1989 採集
- 8 上齋原村小林 29. VI. 1985 採集
- 9 川上町高山上組 14. VI. 1988 採集
- 10 " 地頭西谷 28. V. 1989 羽化
- 11 備中町平川東安田 10. VI. 1988 羽化
- 12 " 平川西安田 5. VI. 1985 羽化
- 13 " 布賀下長谷 30. V. 1990 羽化
- 14 " 布賀黒鳥 28. V. 1986 羽化
- 15 " 長屋向長屋 25. V. 1990 羽化
- 16 成羽町小泉東 9. VI. 1988 羽化
- 17 " 羽根 14. VI. 1988 採集
- 18 " 吹屋白石 5. VI. 1990 羽化
- 19 高梁市中井町津々山際 4. VI. 1987 羽化
- 20 " 宇治町穴田陰地 15. VI. 1986 採集
- 21 " 宇治町本郷笹尾西 10. VI. 1988 羽化
- 22 " 松原町松岡陣山 28. V. 1989 羽化
- 23 北房町下中津井横内 9. VI. 1985 採集
- 24 " 下呂部新田 9. VI. 1985 採集
- 25 " 阿口原茂 2. VI. 1991 羽化
- 26 美星町黒忠八日市 28. V. 1986 羽化
- 27 " 大倉木舟 31. V. 1986 羽化
- 28 加茂川町高富宮浦 24. V. 1990 羽化
- 29 " 福沢西 29. V. 1991 羽化
- 30 神郷町油野重藤 (320m) 25. VI. 1989 採集
- 31 " 油野重藤 (350m) 10. VI. 1988 羽化
- 32 哲多町矢戸内井谷 3. VI. 1990 羽化
- 33 新見市足立 26. VI. 1988 採集
- 34 " 足立~下吉川 26. VI. 1988 採集
- 35 " 番原 25. VI. 1989 採集
- 36 " 草間切畑 31. V. 1985 羽化
- 37 " 草間大原 6. VI. 1985 羽化
- 38 " 豊永宇山先村 5. VI. 1986 羽化
- 39 " 豊永佐状森国 22. VI. 1986 採集
- 40 " 土橋田屋 2. VI. 1987 羽化
- 41 新庄村高下 1. VII. 1989 採集
- 42 久世町目木大内原 4. VI. 1986 羽化
- 43 " 目木橋本 2. VI. 1986 羽化
- 44 上齋原村小林 6. VII. 1985 採集
- 45 " 宮ヶ谷 6. VII. 1985 採集
- 46 奥津町大神宮原 28. VI. 1992 採集
- 47 川上町高山折谷 18. VI. 1978 採集
- 48 " 高山上組 14. VI. 1988 採集
- 49 " 領家八幡 2. VI. 1986 羽化
- 50 備中町平川西安田 15. VI. 1985 採集

## [標本写真説明]

※ 標本の得られた産地について、♂♀別、本文の产地順に1産地1個体ずつの写真を示した。

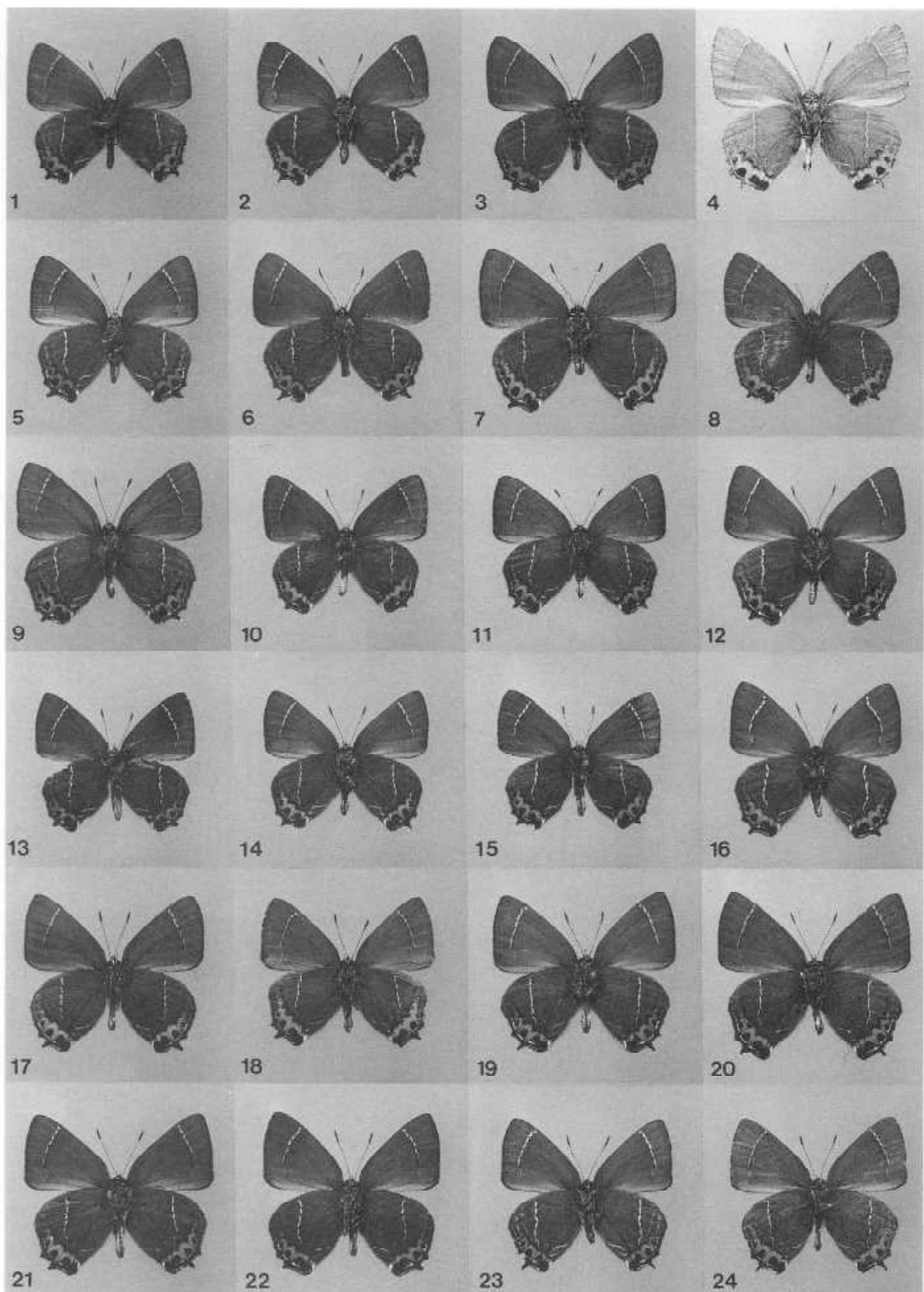
※ 写真1から写真29までが♂、写真30から写真64までが♀である。

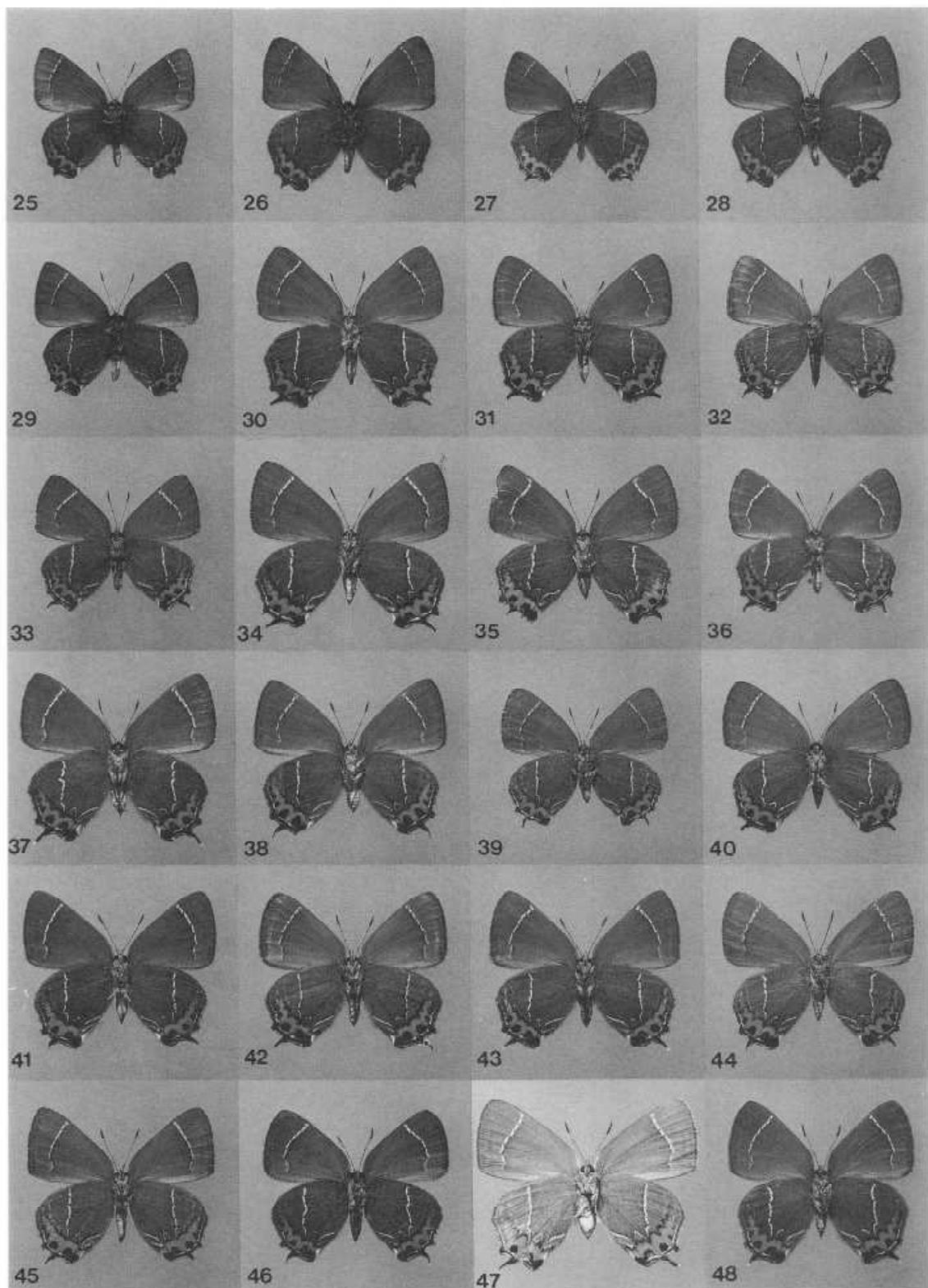
※ 写真4及び写真47は、撮影日が異なるため、大きさ(やや大きい)及びトーン(かなり淡い)が他の写真と異なる。

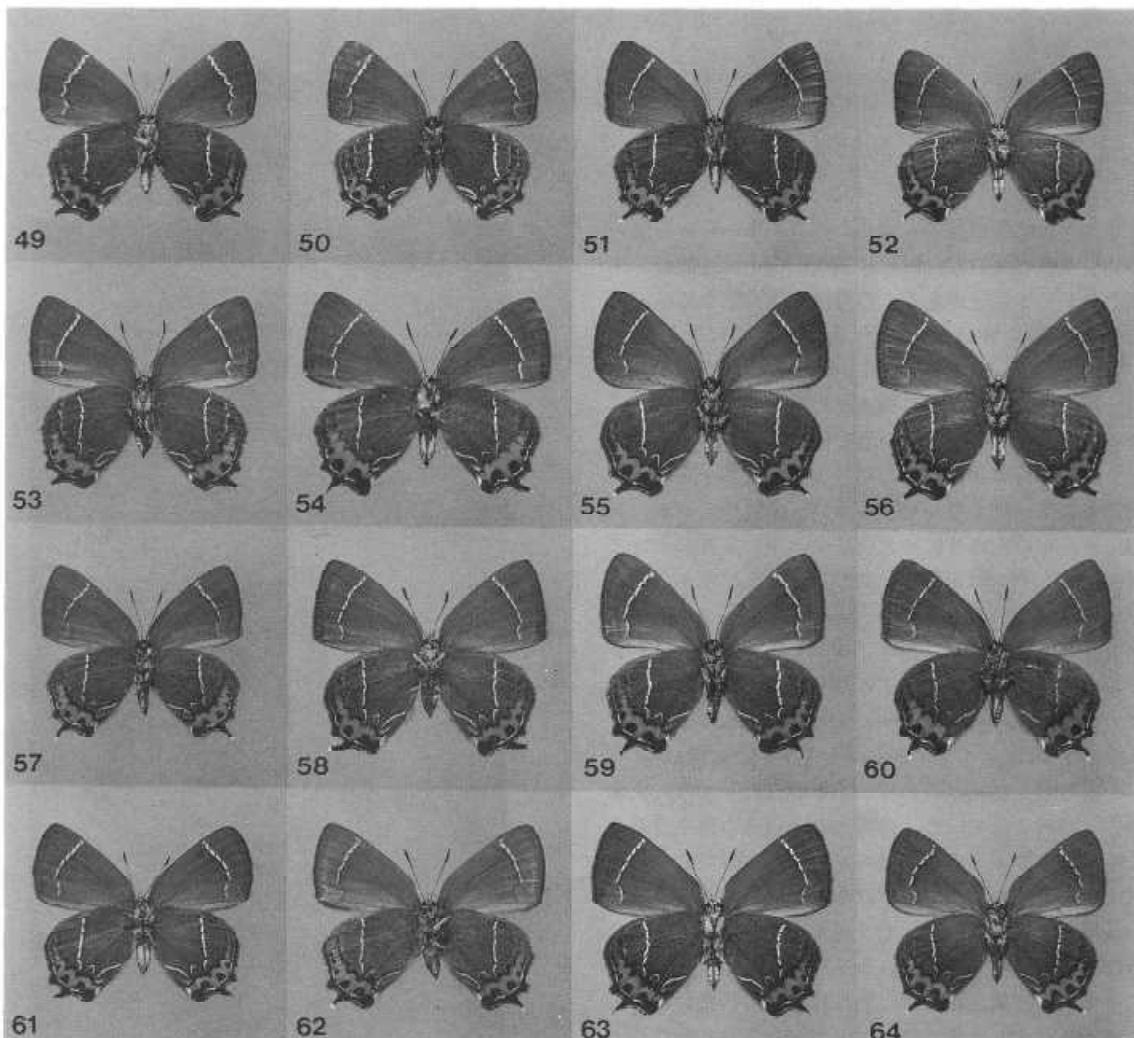
※ 変異についての検討は、行っていない。

※ 以下のデータについては、郡名を省略した。

- 1 哲多町矢戸内井谷 1. VI. 1990 羽化
- 2 新見市草間切畑 28. V. 1985 羽化
- 3 " 草間大原 5. VI. 1985 羽化
- 4 " 豊永佐伏森国 22. VI. 1986 採集







|    |            |              |    |
|----|------------|--------------|----|
| 51 | 備中町布賀下長谷   | 3. VI. 1989  | 羽化 |
| 52 | 成羽町布寄木ノ村   | 4. VI. 1987  | 羽化 |
| 53 | " 小泉東      | 12. VI. 1988 | 羽化 |
| 54 | " 吹屋白石     | 6. VI. 1990  | 羽化 |
| 55 | 高梁市宇治町穴田陰地 | 9. VI. 1985  | 採集 |
| 56 | " 宇治町本郷笛尾西 | 7. VI. 1989  | 羽化 |
| 57 | " 松原町松岡畑谷  | 29. V. 1989  | 羽化 |
| 58 | " 松原町松岡陣山  | 31. V. 1989  | 羽化 |
| 59 | 北房町下中津井横内  | 9. VI. 1985  | 採集 |
| 60 | " 下咎部新田    | 9. VI. 1985  | 採集 |
| 61 | 有漢町上有漢石寺   | 31. V. 1991  | 羽化 |
| 62 | 美星町黒忠八日市   | 10. VI. 1988 | 羽化 |
| 63 | 井原市野上町刈屋原  | 31. V. 1986  | 羽化 |
| 64 | 加茂川町高富宮浦   | 25. V. 1990  | 羽化 |

## おとしふみ

ウラジロミドリシジミの  
倉敷市からの記録

青野 孝昭

ウラジロミドリシジミ *Favonius saphirinus* は、本州では岡山県の児島半島金甲山から初めて記録されたと理解している。

この度、これまで未記録であった倉敷市内の一角落からも本種を採集したので、報告しておく。

1♀、倉敷市玉島服部、June 10. 1994、ナラガシワ樹上より筆者採集、倉敷市立自然史博物館保管

## 参考文献

鈴木一郎、1908. 岡山市付近ノ昆虫. 博物之友, 8

(56) : 271-274

(〒710 倉敷市大内937-8)

## 岡山県御津郡建部町田地子におけるヤンマ類の記録

澤 田 博 仁\*

筆者が建部町田地子を訪れたのは、今から6年前の1989年4月であった。同地は加茂山山系に位置し、白樺山荘という茶屋があるこの附近を捕虫網を持って探索中、林道を分け入った所で偶然見つけた周囲約100m程の小さな池（沼と言った方が適當かもしれない）は、周囲を木立たちに囲まれた盆地のような場所にひっそりと人目につかない形で開けていた。[写真1]

それから毎年3月頃から11月頃まで、暇を見つけては採集に出かけて行った。まさに、ここはトンボの天国、トンボの宝庫といった感じで、4～5月にかけてはクロスジギンヤンマの乱舞が見られ、早朝から昼にかけては池のいたる所で羽化する姿が観察される〔写真2、3〕し、また、10月には数十匹のオオルリボシヤンマが池の周りを周遊するのを目のあたりにし、その光景は感動の極みで、胸の高鳴りを忘れることができない。[写真4：オオルリボシヤンマの産卵]

ところが、1994年5月にそこを訪れたところ、大変なことが起こっていた。白樺山荘からその池を遠巻きにして数キロメートルに渡ってロープが張りめぐらされ、立入禁止の板がぶら下げられている。そのうえ、無断侵入者に対しては罰金を科すとのお触れ書き。仕方なく他の場所へ移動せざるを得なかった。

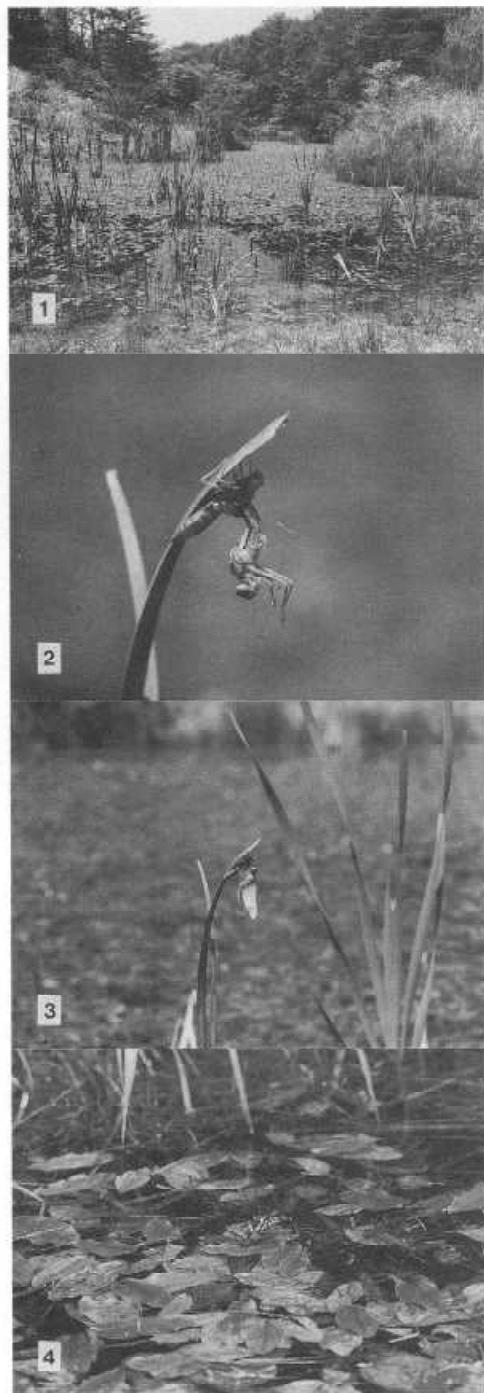
そのことが気にかかり、8月になって再度訪れたところ、以前より厳重にロービングがなされていた。どうしても池の様子が気になり、意を決してロープを潜り抜け、恐る恐るその池まで約20mを人目を気にしながら近付いていったところ、折りからの猛暑、異常湯水のせいで池はすっかり干上がって無数の地割れができていた。これでは水生昆虫やトンボ天国は全滅だと落胆し、そこを早々に立ち去り、それ以来どうなってしまったかと気にかかりながら今日に至り、筆をとっている次第である。当面、記録のまとまっているヤンマ類について報告しておく。採集場所は全て御津郡建部町田地子である。

## Petaluridae ムカシヤンマ科

1. *Tanypteryx pryeri* SELYS ムカシヤンマ

1♂, 21.V. 1989

## Cardoulegasteridae オニヤンマ科



\*〒700 岡山市厚生町二丁目1-8-1001

2. *Anotogaster sieboldii* SELYS オニヤンマ  
1♀, 29. IX. 1991; 2♂, 11. IX. 1992; 1♂, 30. IX. 1992

## Aeshnidae ヤンマ科

3. *Aeshna nigroflava* MARTIN オオルリボシヤンマ  
幼虫1ex., 28. IV. 1991 (18. VI. 1991, 1♂羽化); 1♂ 2♀, 16. IX. 1991; 3♂, 29. IX. 1991; 1♀, 11. IX. 1992; 1♀, 6. X. 1992; 1♀, 20. X. 1992; 1♀, 26. IX. 1993

4. *Anax nigrofasciatus* OGUMA クロスジギンヤンマ  
1♂ 2♀, 幼虫1ex., 2. IV. 1990 (19. V. 1990, 1♀羽化); 1♂, 幼虫3exs., 30. IV. 1990 (4. V. 1990, 1♀羽化); 20. V. 1990, 1♂ 1♀羽化); 4♂ 3♀, 幼虫12exs., 28. IV. 1991 (29. IV. 1991, 1♂羽化); 30. IV. 1991, 3♂ 1♀羽化

; 1. V. 1991, 1♂羽化; 2. V. 1991, 1♂羽化;  
3. V. 1991, 1♂ 1♀羽化; 4. V. 1991, 1♀  
羽化; 5. V. 1991, 1♀羽化; 6. V. 1991, 1♂  
羽化; 2♂ 1♀, 5. V. 1991; 幼虫2exs., 29.  
IV. 1992 (30. IV. 1992, 1♂羽化); 25. V. 1992,  
1♀羽化); 1♀, 7. V. 1992; 幼虫1ex., 2. VI.  
1992 (3. VII. 1992, 1♀羽化)

5. *A. parthenope julius* BRAUER ギンヤンマ

幼虫2exs., 29. IX. 1991 (26. II. 1991, 1♀  
羽化); 7. II. 1992, 1♂羽化)

## [写真データ]

写真1: 1992年6月2日撮影

写真2: 1991年5月5日撮影

写真3: "

写真4: 1991年9月16日撮影

## おとしふみ

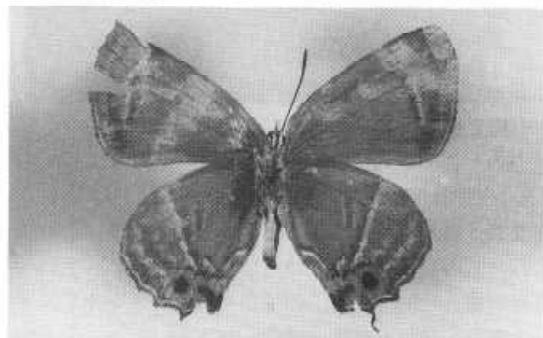
## メスアカミドリシジミの記録

山崎法子

新見市でメスアカミドリシジミを採集したので、報告する。

1♀, 新見市豊永赤馬日畔坂鐘乳穴, 10. VII. 1994,  
筆者採集・保管 (写真)

日畔坂鐘乳穴の洞の入口付近のごろごろと転がっている石灰岩の隙間に、弱り切った様子で翅を横たえていた。長い間もがいていたのか、翅も痛み、鱗粉もかなり落ちていたが、裏面に見られるメスアカミドリシジミの特徴は何とか残っている。



神社境内（駐車場付近）よりも50mほど降りたこのあたりでは、空気が冷たく感じるほど気温が下がるため、飛んでは来たものの冷えすぎて自由に動きがとれなくなつたのではないかと考えられる。ほかにも弱っているエゾスジグロシロチョウと思われるチョウも拾っている。ちなみにこの日の気温は、駐車場で

34.0℃、洞の入口付近は14.0℃だった。

末筆ながらメスアカミドリシジミの同定をしていただいた中村具見氏にお礼申し上げる。

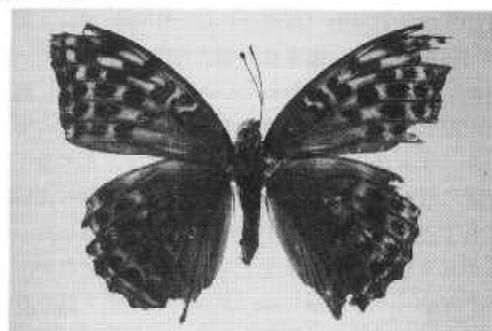
(〒713 倉敷市玉島柏台3-3-8)

## ミドリヒョウモン暗色型♀の記録

土畠重人

ミドリヒョウモン暗色型♀の吉備高原南部から瀬戸内沿岸平野にかけての採集記録はほとんどないと思われる。筆者は、総社市で採集しているので、報告しておく。

1♀(暗色型), 総社市種井, 15. IX. 1993, 筆者採集・保管



高梁川沿いのベンダーショップで訪花中のものを採集した。時期と鮮度からみて、この個体は高梁川沿いに県北部から里降りしてきたものと思われる。

(〒711 倉敷市児島通生236-3)

## キイロヤマトンボ幼虫を岡山県西部及び広島県東部で採集

守 安 敦\*

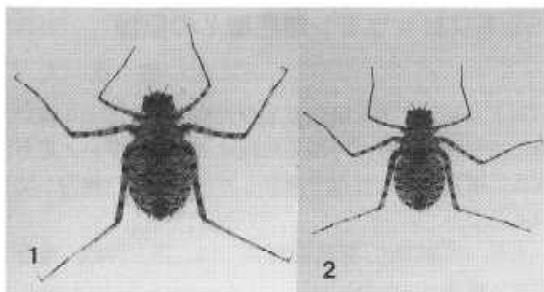
キイロヤマトンボ *Macromia daimoji* OKUMURA は、福島県以南の本州と九州に分布する稀種である。

本種の岡山県での産地は、最近では、倉敷市種松山山系（守安, 1994a）、倉敷市内の高梁川（守安, 1994b）が報告されている。渡辺（1979）によると新見市正田広瀬で1976年6月12日に成虫が採集されているが、残念なことに標本は虫害で失ったという渡辺氏のお話であった。また、村木（1994）によると、広島県での本種の記録はまだないようである。

筆者は、岡山県と広島県にまたがる小田川の中流部で、本種の生息に適していると思われる良好な環境を見つけ、幼虫を採集することができたので報告しておく。

幼虫1ex., 岡山県後月郡芳井町, 2. I. 1995, 筆者採集・保管 [写真1]

幼虫2exs., 広島県福山市山野町, 3. I. 1995, 筆者採集・保管 [写真2]

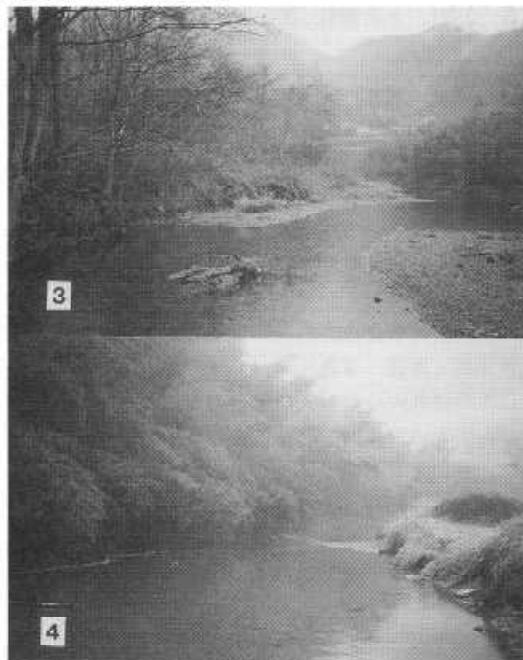


芳井町の採集場所 [写真3] は、川幅約10m。川の南側（写真左側）は雑木林で後方に山がせまっている。川底はレキや砂におおわれているが、南側の淵に細かい砂が約8m<sup>2</sup>の広さで堆積した場所があり、ここで採集した。水深は約10~30cmで、流れはほとんどなく、砂は薄く泥をかぶっている。ここでは、上記の記録以外にも7exs. の本種幼虫(8~12mm)を確認した。他に、ダビドサナエやコヤマトンボの幼虫もいたが、数は多くなかった。魚類では、カマツカが多く見られた。

山野町の採集場所 [写真4] は、川幅約12mで、全体に浅く、砂底である。北側（写真右側）の川岸に沿って細かい砂が堆積した場所があり、そこで採集し

た。幼虫のいた場所の水深は約20cmで、流速は約6cm/秒だった。対岸は竹林で、その後方に山がせまっている。ここでもコヤマトンボやダビドサナエの幼虫が見られ、魚類では、カマツカやズナガニゴイが見られた。

岡山県及び広島県では、本種の生息できる河川はまだほかにも残されていると思われる所以、今後の詳しい調査が必要であろう。



## 引用文献

- 守安敦, 1994a. 最近の種松山山系のトンボ. すずむし, (128): 1-3  
 守安敦, 1994b. 高梁川のキイロヤマトンボ. しぜんくらしき, (11): 12  
 木村明雄, 1994. 絶滅危惧種キイロヤマトンボに関する報告. 昆虫と自然, 29(7): 19-26  
 渡辺毅, 1979. Ⅲ阿新のトンボ. 続新見阿哲の記録, pp.71-75. 岡山

## 岡山県におけるクロサナエの分布と新産地

守 安 敦\*

クロサナエ *Davidius fujiama* FRASER は、日本特産種で本州、四国、九州に分布しているが、同属のダビドサナエにくらべ産地が局限される傾向が強い。

本種の岡山県での産地は、真庭郡勝田町久賀<sup>1)</sup>、真庭郡新庄村土用<sup>4)</sup>、真庭郡勝山町神庭の滝<sup>5)</sup>、苦田郡鏡野町岩屋<sup>5)</sup>、阿哲郡大佐町伏谷<sup>5)</sup>、苦田郡阿波村<sup>6)</sup>、英田郡西栗倉村<sup>6)</sup>、苦田郡加茂町倉見<sup>6)</sup>、苦田郡上齋原村岡山県立森林公園<sup>7)</sup>が報告されている。

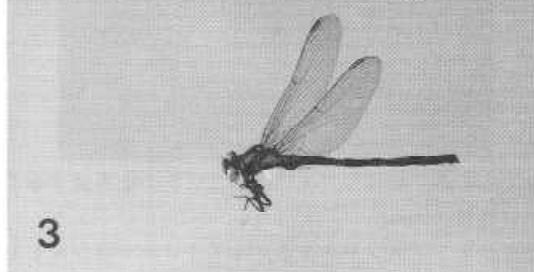
筆者は、新たに岡山県最南部の記録になると思われる芳井町で本種を採集しているので、報告しておく。

幼虫1ex., 後月郡芳井町日南, 27. III. 1994, 筆者採集, 保管

鳴川【写真1】でトンボの幼虫を採集し、持ち帰って調べたところ、ダビドサナエの幼虫に混じって尾部付属器の形【写真2】からクロサナエの雄らしい幼虫が1匹だけいることに気付き、飼育をしたところ、4月24日の午前中に1♂が羽化し、クロサナエであることを確認した【写真3】。同じように飼育していたダビドサナエの羽化が全て終わったあとだった。当地では、次の記録も含め、砂防ダムに砂がたまり、流れが



3



\* 〒710 倉敷市浦田2430

緩やかになっている部分の淵で採集した。

幼虫1ex. (♂), 後月郡芳井町日南, 2. I. 1995, 筆者採集・保管

幼虫 2 exs. (4. V. 1995, 1♂羽化), 後月郡芳井町大内谷, 2. I. 1995, 筆者採集, 成虫・幼虫標本とともに筆者保管

途中に杉林のある小溪流の杉林の中にある落ち込みの底で採集したものである。

1♂ 1♀, 羽化殻1ex., 後月郡芳井町大内谷, 13. V. 1995, 筆者採集・保管

羽化殻は、溪流のフキの茎についていた。

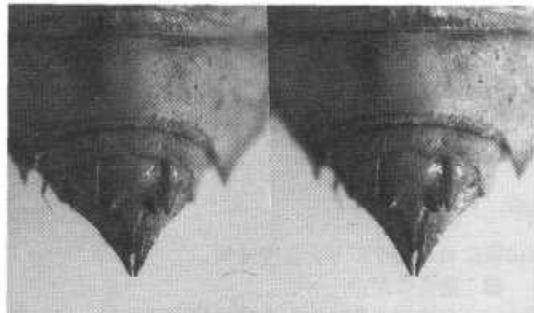


写真2 クロサナエ♂羽化殻の尾部付属器

(立体視ができるようになっています。目に近づけ、遠くを見るようなつもりでピントがぼけてもそのままになります。ゆっくりと写真を遠ざけていくと立体的に見える位置があります。)

なお、倉敷昆虫館、倉敷市立自然史博物館、岡山県自然保護センターに収蔵されている標本を調べたところ、すでに報告されているもの以外に以下のデータの岡山県産本種の標本を確認したので、あわせて報告しておく。

1♂, 勝田郡勝田町, 30. IV. 1951, 安東瑞夫採集, 倉敷昆虫館保管

1♀, 真庭郡新庄村毛無山, 18. VII. 1973, 近藤光宏採集, 倉敷市立自然史博物館保管

1♂, 真庭郡川上村, 13. VI. 1975, 重井博採集, 倉敷市立自然史博物館保管

1♀, 真庭郡新庄村毛無山, 20. VII. 1980, 重井博採集, 倉敷市立自然史博物館保管

1♂, 阿哲郡大佐町御洞滝, 8. V. 1983, 重井博採集, 岡山県自然保護センター保管

1♀, 川上郡川上町穴門山, 6. VII. 1975, 重井博採集, 岡山県自然保護センター保管

これらの産地を岡山県地図にプロットすると、図のようになる。これを見ると、今までの記録が県北部に偏っていることが分かる。しかし、川上町や芳井町で



#### 岡山県におけるクロサナエの産地

●: 過去の記録

○: 倉敷昆虫館、倉敷市立自然史博物館、岡山県自然保護センターの収蔵標本の産地

☆: 筆者が今回確認した産地

(詳しい地名のわからないものは、市町村の中央部にプロットした。)

記録されていることや、隣県における産地として兵庫県相生市矢野町<sup>2)8)</sup>や広島県神石郡三和町井関<sup>3)</sup>などが知られていることから、今後調査が進めば、県北西部や県中部で産地が追加される可能性があると思われる。

末筆ながら、本種の過去の記録についてご教示いただいた倉敷昆虫館の重井博氏、過去の文献探しにご尽力いただいた倉敷昆虫館の小野洋氏、収蔵標本を確認していただいた岡山県自然保護センターの森生枝氏に厚くお礼申し上げる。

#### 引用文献

- 1) 安東瑞夫, 1956. 作東の蜻蛉類 1. すずむし, 6 (2) : 1-5
- 2) 相坂耕作, 1987. 西播磨のトンボ (IV) サナエトンボ科. てんとうむし, (10) : 52-54
- 3) 秋山美文・安達隆昌・藤原弘史, 1990. 広島県の蜻蛉類産地追加. 広島虫の会会報, (29) : 51
- 4) 林憲一, 1963. 蜻蛉目. 新庄村の昆虫調査報告 (その1). すずむし, 13 (2) : 3-5
- 5) 林憲一, 1966. トンボ雑記. すずむし, (100) : 72-74
- 6) 道信順, 1968. トンボ目録. 美作の昆虫 (1) チョウ・カミキリ・ハチ・トンボ分布資料, pp.23-26, 美作虫の会, 津山
- 7) 岡山県編, 1983. 自然保護基礎調査報告書—湖沼・湿地地域生物学調査結果—(岡山県立森林公園), 94pp. 岡山県環境保健部自然保護課, 岡山
- 8) 米村和繁・米村和也, 1982. 相生市の蜻蛉. てんとうむし, (8) : 56

#### おとしぶみ

#### 岡山市北部におけるヒロオビミドリの採集記録

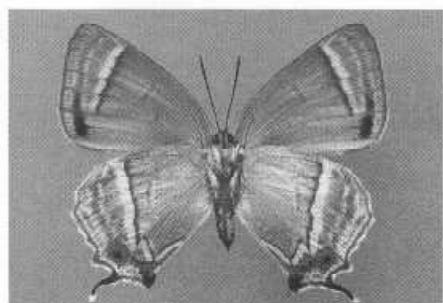
中 村 具 見

ヒロオビミドリシジミは、県下では吉備高原以北で確認されており、分布の南限に近い岡山市では西北部の足守地区以外では未記録と思われるが、御津郡との境界に近い中牧地区においても採集することができたので報告しておく。

岡山市中牧・郷 (60m), 1♀, 5. VI. 1994

この付近だけでなく、旭川の右岸では金山山麓一帯や、左岸でも半佐付近までナラガシワは少なくないで、意外に広く分布しているものかも知れない。

なお、当日この他に採集したゼフィルスは次のとお



りであるが、特にウスイロオナガシジミを多産することは注目される。

ウラナミアカシジミ 1♂, ミズイロオナガシジミ 1ex., ウスイロオナガシジミ 24exs., ウラジロミドリシジミ 2♂ (T719-11 総社市真壁1048)

## 岡山県から採集した甲虫類の記録・訂正

山 地 治\*

岡山県下から採集した甲虫類のうち記録の少ないとと思われる若干の種について報告する。また、筆者が単独または渡辺昭彦氏と共にすずむし誌上に報告したものうち、誤りがあるものがあったので、ここで訂正させていただきたい。

貴重な採集品を提供くださった植田千弘氏・野嶋宏一氏・三宅誠治氏・渡辺昭彦氏・渡辺和夫氏に感謝申し上げる。また、佐々作寛之先生・上野輝久氏・笠原須磨生氏・川田一之氏・北山昭氏・的場績氏には同定の便宜を図っていただき、ここにお礼申し上げる。

学名・和名は原色日本甲虫図鑑II~IVに従い、採集者名は姓だけにさせていただき、筆者等頻繁に出てくる採集者名は、山地-Y、渡辺昭彦-AW、渡辺和夫-KWと略記した。なお、一部の種に対しても写真を添付したが、その番号は学名の前の番号に対応している。

1. *Perileptus naraensis* S.UENO ツヤホソチビゴミムシ  
川上町磐窟溪、3exs., 26. V. 1990, AW, 笠原氏同定、谷川のコケ上にいたそうである。

2. *Epaphiopsis punctostriata* (PUTZEYS) ?  
ハギチビゴミムシ?

中和村山乘山、1ex., 15. VI. 1991, Y  
川上村西の谷、3exs., 16. VII. 1994, Y  
中和村山乘山、5exs., 10. IX. 1994, Y  
川上村蒜山一大山道路、1ex., 18. VI. 1994, Y  
山乘山と蒜山一大山道路では笠原氏も採集している。主に原生林の落ち葉下から採集できた。笠原氏によると、地域変異のある種だそうなので、今回は?付きで報告しておく。

3. *Paratachys uenoianus* (HABU)  
ウエノコミズギワゴミムシ  
倉敷市中庄、1ex., IX. 1969, AW, 笠原氏同定  
加茂町倉見、1ex., 1. IX. 1990, 野嶋氏採集  
最近になって日本(東京、高知、与那国島)から記録された種である。原産地は台湾。

4. *Polyderis microscopicus* (BATES)  
チビミズギワゴミムシ  
上齋原村三が上、1ex., 28. V. 1989, Y

山頂の石下から採集した。日本最小のゴミムシだそうである。笠原氏同定。

5. *Tachyura lutea* (ANDREWES)

チャイロコミズギワゴミムシ  
佐伯町宇生、1ex., 29-30. VII. 1992, KW, 灯火採集

岡山市芳賀、1ex., 3. VIII. 1987, Y, 灯火に飛来  
この種も最近日本から記録された種である。笠原氏同定。

6. *Pterostichus samurai* (LUTSHNIK)

オオキンナガゴミムシ  
川上村上徳山、2♀, 7. VIII. 1994, 三宅氏採集

図鑑には金銅色の個体が載っているが、岡山県のものは他に1個体見ているが全て黒色の型である。

7. *P. fortis* MORAWITZ オオナガゴミムシ

岡山市牟佐地蔵、1♀, 29. VII. 1993, 植田氏採集  
自宅の灯火に飛来してきたそうである。県内では岡山市の古い不確実な記録があるが、最近他にも県内で採集されているようである。

8. *Synuchus crocatus* (BATES)

シラハタクロツヤヒラタゴミムシ  
新見市草間切畑、1♀, 3. X. 1993, 三宅氏採集、笠原氏同定

9. *Amara macros* (BATES) イグチマルガタゴミムシ  
川上村西の谷、5exs., 16. VII. 1994, Y  
河原近くの石下より採集した。

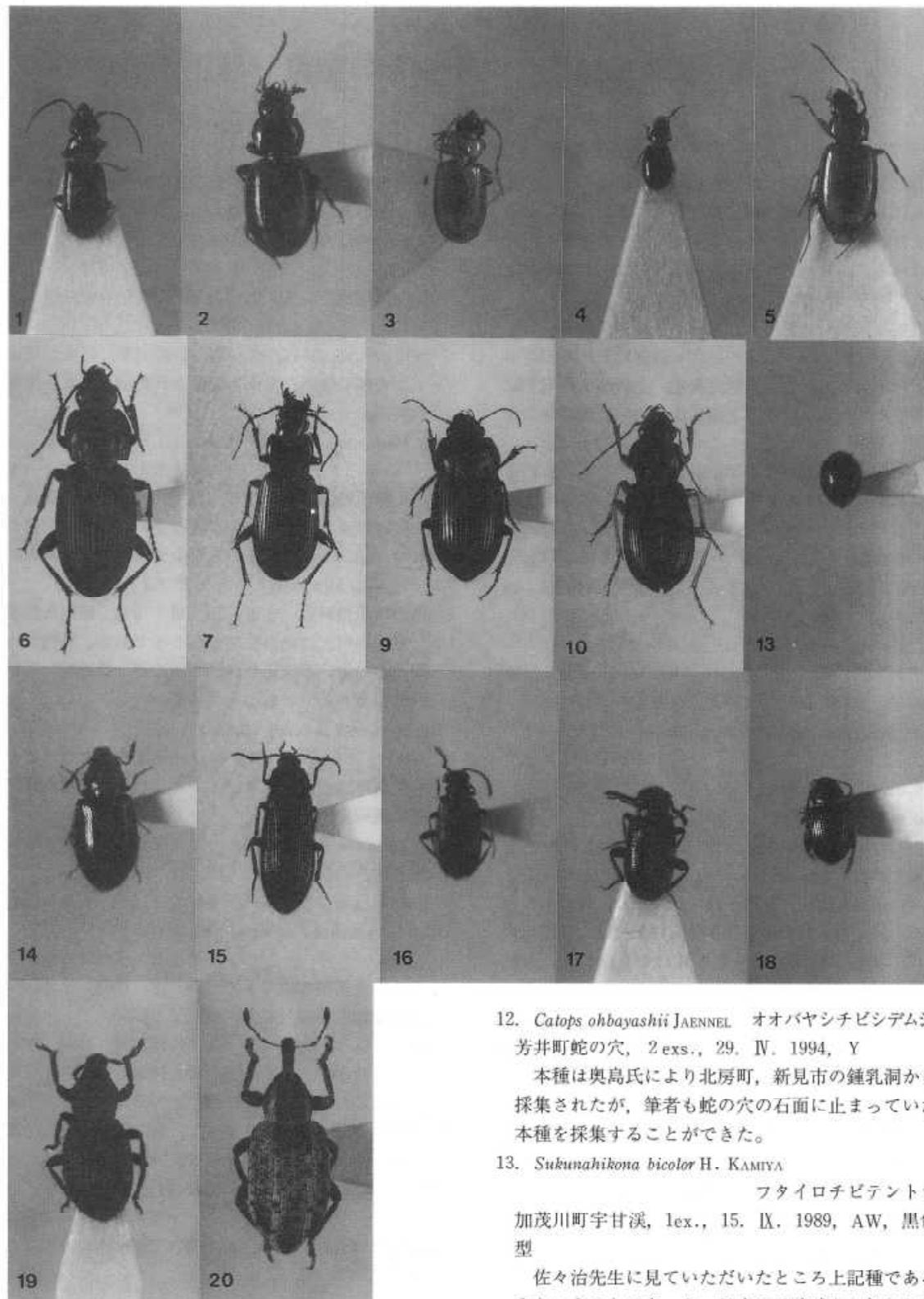
10. *Trichotichnus daisenensis* HABU

ダイセンツヤゴモクムシ  
加茂町倉見根知峰、1♂, 26. IX. 1992, Y  
上齋原村赤和瀬、1♂, 21. V. 1994, Y  
川上村蒜山一大山道路、2♂, 18. VI. 1994, Y  
川上村西の谷、1♂, 16. VII. 1994, Y

鳥取県大山の原産で、他に山口県から記録がある。根知峰ではペイトトラップで、他は沢の石起こしで採集した。西の谷以外は笠原氏同定。

11. *Bradyellus lewisi* SCHAUBERGER

ルイスヒメゴモクムシ  
西粟倉村若杉、1♀, 27. VII. 1990, AW, 笠原氏同定



12. *Catops ohbayashii* JAENNEL オオバヤシチビシデムシ  
芳井町蛇の穴, 2 exs., 29. IV. 1994, Y

本種は奥島氏により北房町、新見市の鍾乳洞から採集されたが、筆者も蛇の穴の石面に止まっていた本種を採集することができた。

13. *Sukunahikona bicolor* H. KAMIYA

フタイロチビテントウ  
加茂川町宇甘浜, 1ex., 15. IX. 1989, AW, 黒色型

佐々治先生に見ていただいたところ上記種であろうということであった。日本では琉球から知られて

いる種であるが、本州での採集例もあるそうである。確認のため再記録が待たれる。

14. *Lissodema dentatum* LEWIS

クリイロチビキカワムシ

川上町磐窟渓, 1ex., 12. IX. 1981, Y  
上齋原村三が上 (山上山), 1ex., 23. VII. 1989, Y  
上齋原村三が上 (山上山), 1ex., 7. VII. 1990, Y  
中和村山乘山, 2 exs., 11. VII. 1993, KW  
すべて上野氏同定。

15. *Euryzilora lividipennis* LEWIS ムナクボナガクチキ  
西粟倉村若杉, 1ex., 9-10. VII. 1994, KW, 灯火  
中国地方では広島、鳥取の記録があるが、希な種である。16. *Pseudanidorus rubrivestus* (MARSEUL)

ホソニセクビボソムシ

賀陽町吉川八幡宮, 1ex., 12. VI. 1993, KW, 上野氏同定

17. *Syzeton brunnidorsis* (MARSEUL)

セグロニセクビボソムシ

旭町里, 1ex., 1. VII. 1990, 野嶋氏採集, 上野氏同定

18. *Batophila acutangula* HEIKERTINGER

ハネナシトビハムシ

西粟倉村若杉, 1ex., 23. IX. 1990, AW

19. *Trachyrhinus* sp. チビツチゾウムシの一種  
高梁市臥牛山, 1ex., 14. V. 1989, Y  
落葉ふるいで採集した。的場氏同定。20. *Hypera* sp. タコゾウムシの一種

落合町日名神の毛, 1ex., 26. V. 1991, KW  
叩き網による。上翅鱗毛は米粒形である。的場氏同定。

(訂正)

## 21. すずむし No.123, p.14

正) *Pterostichus pseudopachinus* NAKANE

キイオオナガゴミムシ

誤) *Pterostichus sphodriformis* BATES

ヒョウゴナガゴミムシ

笠原氏によると、筆者が下段種名で報告した個体は上段の種ということである。ヒョウゴナガゴミムシの方も県内には分布しており、2種を含めたナガゴミムシはいづれまとめて報告するつもりであるが、今回は上記の訂正にとどめる。

## 22. すずむし No.126, p.12

正) *Nebrioporus nipponicus* (TAKIZAWA)

ヒメシマチビゲンゴロウ

誤) *Potamonectes hostilis* (SHARP)

コシマチビゲンゴロウ

筆者と渡辺昭彦氏が下段種名で報告したものは、北山昭氏によると上段の種だということで訂正させていただく。上段の種は最近まで下段の種のシノニムと思われていた種である。

## 23. すずむし No.128, p.10

正) *Dictyoptera oculata* (GORHAM)

メダカヒシベニボタル

誤) *Dictyoptera gorhami* (KÔNO)

和名は同じ

学名が別の種のものと間違っていた。

## 24. すずむし No.128, p.10

*Xylobanus basivittatus* NAKANE カタスジアミメボタル

上記の種は、すずむし No.123, p.11に筆者と渡辺昭彦氏が報告したものと同データの同じ個体であった。筆者の不注意であり、お詫びしたい。

## 25. すずむし No.125, p.33

正) *Leiochrodes masidai* NAKANE

キロテントウゴミムシダマシ

誤) *Leiochrodes satzumae* LEWIS

テントウゴミムシダマシ

渡辺昭彦氏と筆者が下段種名で報告した種は、川田氏の指摘により渡辺氏と再度調べ直したところ上段の種と同定できたので、訂正する。

## 26. すずむし No.124, p.19

正) *Asphaltus* sp. ヒメカタゾウムシの一種

誤) *Asphaltus japonicus* SHARP

ホソヒメカタゾウムシ

筆者が下段種名で報告した種は、的場氏の同定により、種名を確定せず、上段に訂正する。

## おとしぶみ

## データの訂正について

中 村 具 見

すずむし第128号(1994)に報告した「吉備高原地域西北部のメスマカミドリシジミ(続報)」(21~24ページ)の中で、新見市草間・大原~土橋・新屋原の採集者を、小野克己氏と記したが、同氏より、当日同行された徳田純夫氏が採集されたものであるとの御指摘をいただいたので、筆者の不手際をお詫びするとともに、下記のとおりデータを訂正しておきたい。

新見市草間・大原~土橋・新屋原(430m) 1♂,

16. VI. 1985 徳田純夫

(〒719-11 総社市真壁1048)

## ヒロオビミドリとハヤシミドリの 混棲地について

中村具見

岡山県下では、ヒロオビミドリシジミはナラガシワを食樹として吉備高原地域を中心に標高50~500m位の丘陵部から低山地に分布しており、また、ハヤシミドリシジミはより標高の高い350~800m付近の中国山地帯の高原に生じるカシワ林を生息地として、両種は原則として垂直的に棲み分けている。このことは、食樹であるナラガシワとカシワの垂直分布の違いを反映したものとみられるが、標高350~500m位の間でナラガシワとカシワが混生している場合、阿哲郡神郷町重藤（山本、1983）などのように同一の場所で両種が記録されている例が知られている。

今回は、下記のとおり全く同一地点で同時に両種を採集することができたので、混棲地に関する記録の1例として報告することとした。

### 〔採集記録〕

ヒロオビミドリシジミ 1♂ 1♀

ハヤシミドリシジミ 1♂

真庭郡勝山町竹原 (500m), 2. VII. 1994

採集地は、旭川の支流により刻まれた神庭の渓谷の背後に横たわる低い山地で、頂部はなだらかな起伏の台地状の地形となっているため、大部分は牧草地として開かれており、その周辺には斜面も含めてヒノキ等の植林地の間に落葉広葉樹林が点在している。この付近のナラガシワとカシワの垂直分布をみると、斜面から山麓部にかけてはナラガシワしかみられないが、頂部の牧場付近一帯ではカシワが若干混在しており、ナラガシワ、カシワ、コナラ、クリ等が主体の落葉二次林を形成している。

低地性のナラガシワは、県下では一般に山麓部から丘陵、低山地帯の上部にかけて分布しており、ほぼこの付近が垂直分布の上限にあたるものと考えられる。一方、竹原地区からさらに登ると背後に連なる星山山系（標高1,030m）の山麓から斜面の上部、凡そ500~800m付近にかけて随所にカシワの優占する林があるが、標高が下がるにつれて少なくなり、その下限がこの付近にまで到達している。その結果、カシワとナラガシワの混交した林が生じているものと考えられる。

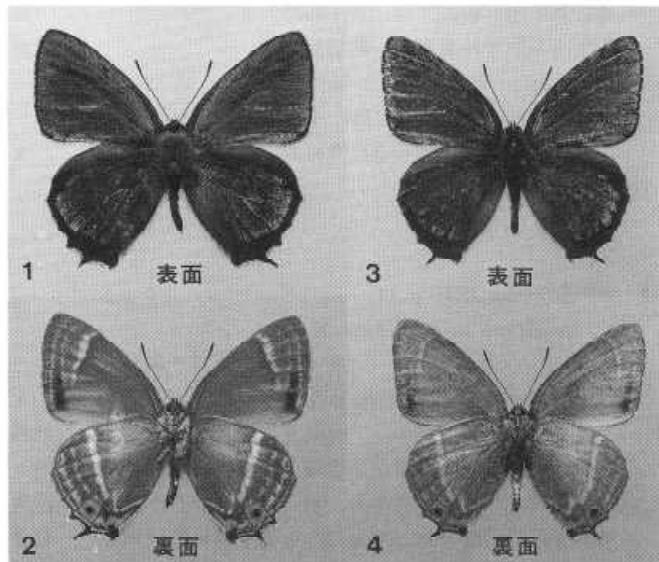
この日は午前10時過ぎに現地に到着し、まず最初にカシリをビーティングして飛び出した大型のゼフィル

スを探集したところ、羽化後間もない新鮮なハヤシミドリのオス〔写真1、2〕であり、活動時間帯を外れていたせいか、飛び方も不活発であった。

次いで、このカシワの木の中ほど良く張り出した横枝の先端部を占有していた少し小型のゼフを探集したところ、汚損したヒロオビミドリのオス〔写真3、4〕であり、さらに、同じ場所で低所に飛来したヒロオビミドリのメスも得ることができた。カシワの木の高所にはまだ占有飛翔を繰り返すゼフの姿が認められたが、多分ヒロオビミドリの活動時間帯でもあるので、同種と思われる。これらの個体以外には採集できなかつたが、ハヤシミドリに比べてヒロオビミドリの方が著しく汚損していたのが印象的であった。

のことから、まず同じ場所に両種が生息する場合、その発生期にややズレを生じていることが想定される。すなわち、ヒロオビミドリの場合、この付近では6月中旬ころから発生を始め、7月に入るとオスは汚損することが多く、ハヤシミドリはやや遅れて6月末頃から漸く羽化するようである。従って、オスの占有行動、活動時間等の習性に差が認められることと合わせて、出現期が若干ずれていることも近縁な両種の共存に関係しているものと考えられる。

なお、採卵調査は全く行っていないので、この地で食樹も含めて明瞭に生活圏を分けているのかどうかは検討の余地があるように思う。



### 〔参考文献〕

山本正志 (1983) 新見市とその周辺のチョウ相、すかしば(20): 35-40

(〒719-11 総社市真壁1048)

## 浅野憲一氏の採集標本の中から

小松 恵\*

1993年11月4日に倉敷昆虫同好会会員の浅野憲一氏が急逝された。47才の若さだった。

筆者は生前、氏とは、たいへん交遊を深めていただけに、最初はとても信じられず、ただ茫然とするだけだった。

氏は熱心な蝶屋さんで、会の活動にも積極的に参加され、会員諸氏もご存じの方も多いのではないかと思う。倉敷市立自然史博物館の第3回特別展「岡山県のチョウ」展でも、標本や切手などを出品していたのを今でも思い出すし、また、岡山県内はもとより県外にもよく採集に出られ、四国や信州方面へ一緒に出かけたこともあった。飼育もよくやられていたようで、庭に数多くの食草・食樹を植えて研究しておられた。冬の採卵にも同行させていただき、どんな環境の木によく産卵するか、食樹のどんな部分に産卵するかなどを解説してもらったり、食樹の同定にも詳しかったのを覚えている。

1994年、ちょうど1周忌のころ、浅野氏宅へお伺いして標本を見せていただく機会があった。どの標本も大変きれいに整理され、データも正確に記載されており、氏の几帳面さが伺われた。

その標本の中で、今となっては非常に珍しい記録や分布上おもしろそうな産地など、いくつか気がついた点があったので、「すずむし」誌上をお借りして紹介する次第である。

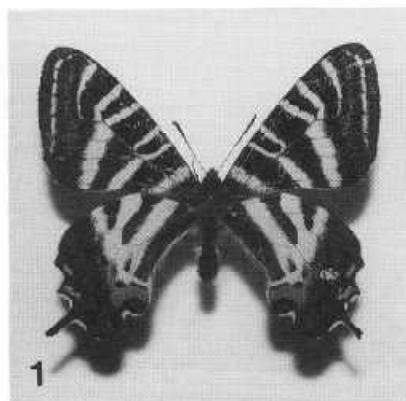
発表に当たり、幸枝夫人にも快く御承諾いただいたので、ここに厚くお礼申し上げます。

発表する種の選定に当たっては、岡山県内で採集されたものであること、野外採集品であること（飼育羽化品は原則除く）、データが整っていること、現在あるいは近年、その産地に生息しているとは思えない種、極めて稀な記録、迷蝶、開発などで個体数の少なくなった種などを選定するよう留意した。

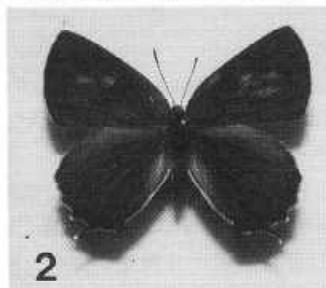
## リスト

- ギフチョウ *Luehdorfia japonica*  
真庭郡湯原町、2♂、21. IV. 1968 [写真1]  
湯原町と記載されているだけで、詳細は不明であるが、現在では絶滅しているものと思われる。

参考のため記録しておく。



- オナガアゲハ *Papilio macilentus*  
吉備郡真備町上二万、1♂、20. V. 1984  
自宅付近で採集したものであろう。平地では少ない。
- カラスアゲハ *P. bianor*  
吉備郡真備町上二万、1♂、2. VIII. 1976
- ムラサキツバメ *Narathura bazalus*  
倉敷市玉島、4♂、4. X. 1989  
生前、氏から玉島の本種について話を聞いたことがある、神社で発生しているとか…。
- ウラミシジジミ *Wagimo signata*  
岡山市足守問倉、1♂、2. VI. 1985  
吉備高原より北での分布は広いが、南部よりの産地であり、分布の縁に当たる。  
(この記録は飼育羽化品?)
- ミドリシジミ *Neozephyrus taxila*  
倉敷市西坂台、2♂1♀、21. VI. 1989 [写真2]



住宅団地の斜面に低いハンノキが数本あり、そこで発生していたのを筆者も確認している。現在は道路拡張により生息していないと思われる。

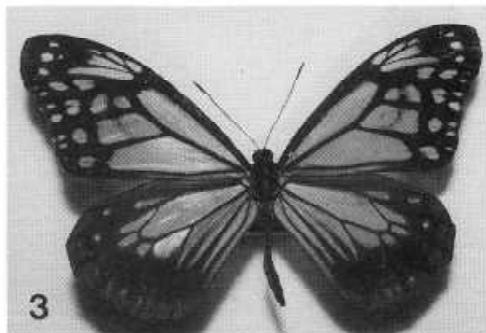
7. クロツバメシジミ *Tongeia fischeri*

岡山市足守、1♂, 10. IX. 1987

古い民家の屋根で発生していたという。

8. アサギマダラ *Parantica sita*

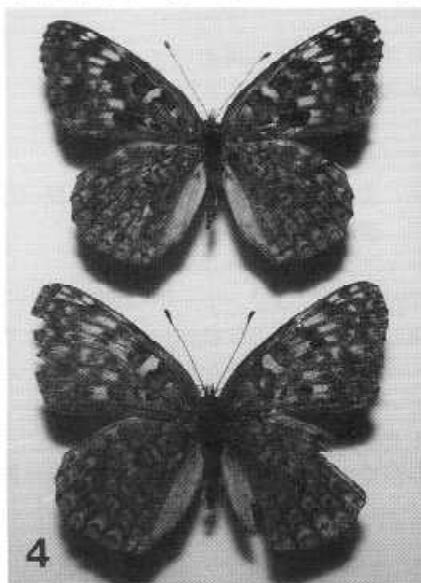
倉敷市連島町宮ノ浦、1♂, 28. V. 1961 [写真3]



秋期の記録は平地でも多いが、春期の記録は少ないと思われる。

9. ヒヨウモンモドキ *Melitaea scotosia*

新見市草間切畠、1♂ 3♀, 23. VI. 1963 [写真4]



1960年代には多かったのかもしれない。現在では、生息できそうな環境はない。

真庭郡川上村明連谷、1♂, 27. VII. 1982

・ 中和村大原、2♂ 3♀, 11. VII. 1992

中和村の産地は筆者も調査したが、確認できなかった。

10. ウスイロヒヨウモンモドキ *M. protomedia*

真庭郡川上村苗代、1♂, 26. VII. 1976

・ 新庄村田浪、1♂, 18. VI. 1983

・ 川上村上徳山、1♂, 16. VII. 1988

・ 中和村大原、1♂, 11. VII. 1992

中和村ではヒヨウモンモドキと混棲していたということである。

11. アスマイチモジ *Limenitis glorifica*

吉備郡真備町上二万、1♂, 7. VIII. 1981

平地の記録は少ない。

12. ミスジチョウ *Neptis philyra*

川上郡備中町、1♂, 6. VIII. 1987

記録は明確でないが、県内では個体数の少ない種である。

13. インガケチョウ *Cyrestis thyodamas*

川上郡備中町坪野、2♂, 10. VIII. 1989

分布を拡大している種であるが、この年における備中町の記録は珍しい。

14. ウスイロコノマチョウ *Melanitis leda*

吉備郡真備町上二万、1♂, 10. X. 1990

阿哲郡大佐町大井野、1♂, 17. VIII. 1991

大発生した1991年秋期の前に、県北で夏型が採集されている。

## 参考文献

倉敷市立自然史博物館 (1986) 岡山県のチョウ

## おとしふみ

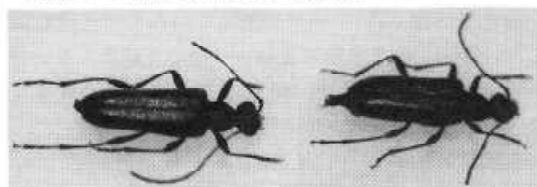
## 鬼ヶ嶽温泉にて

## ミヤマルリハナカミキリ採集

岩出 齊

鬼ヶ嶽温泉のカエデ花上よりミヤマルリハナカミキリが得られたので、報告しておく。

2 exs., 小田郡美星町鬼ヶ嶽温泉, 3. V. 1995



当日は、雨上がりのやや薄日のさした天候で、多数のカエデヒゲナガコバネカミキリに混じって得られた。

(〒710 倉敷市堀南858番地16)

# 倉敷市立自然史博物館に寄贈されている 故浅野憲一氏採集のチョウ類標本

青野孝昭\*

倉敷市立自然史博物館には浅野憲一氏が生前採集された岡山県下のチョウ類のうち、55種90個体の標本が、昭和58年の設立・開館に合せて寄贈されている。それらはオオウラギンヒョウモンのような、今では得がたい絶滅危惧種も含み、貴重なコレクションである。ここに、故人を偲び、コレクション個々の標本につけられたラベルに基づいて、各種名と採集データを報告させていただきたい。

報告にあたり、謹んで浅野憲一氏の御冥福をお祈り申し上げます。

**セセリチョウ科 Hesperiidae**

1. ミヤマセセリ *Erynnis montanus* (BREMER)  
1♀, 真庭郡新庄村毛無山, May 23, 1983
2. ギンイチモンジセセリ  
*Leptalina unicolor* (BREMER et GREY)  
2 exs., 真庭郡新庄村田浪, Aug. 10, 1982
3. ホシチャバネセセリ  
*Aeromachus inachus* (MENETRIES)  
1 ex., 真庭郡新庄村田浪, July 24, 1983
4. ホソバセセリ *Isoteinon lamprospilus* C. et R. FELDER  
2 exs., 総社市井山, July 18, 1982
5. スジグロチャバネセセリ  
*Thymelicus leoninus* (BUTLER)  
1♂, 阿哲郡神郷町下油野, July 9, 1983  
1♂, 新見市草間, June 19, 1982
6. ヘリグロチャバネセセリ *T. sylvaticus* (BREMER)  
1 ex., 真庭郡川上村上徳山, July 24, 1983  
2 exs., 新見市草間, July 2, 1983
7. コキマダラセセリ  
*Ochloides venatus* (BREMER et GREY)  
1♀, 真庭郡川上村明連, July 24, 1983
8. キマダラセセリ *Potanthus flavus* (MURRAY)  
1 ex., 倉敷市連島町北面, Aug. 29, 1982
9. コチャバネセセリ *Thoressa varia* (MURRAY)  
1 ex., 総社市美袋, May 4, 1983  
1 ex., 総社市井山, July 18, 1982
10. ミヤマチャバネセセリ  
*Pelopidas jansonis* (BUTLER)

2 exs., 真庭郡川上村上徳山, July 24, 1983

## 11. イチモンジセセリ

*Parnara guttata* (BREMER et GREY)

1 ex., 倉敷市児島宇野津, Aug. 16, 1982

**アゲハチョウ科 Papilionidae**

12. ジャコウアゲハ *Byasa alcinoe* (KLUG)  
1 ex., 高梁市臥牛山, May 4, 1983
13. ミヤマカラスアゲハ *Papilio maackii* MENETRIES  
1♀, 真庭郡新庄村毛無山, May 23, 1983

**シロチョウ科 Pieridae**

14. ツマグロキチョウ *Eurema laeta* (BOISDUVAL)  
2 exs., 真庭郡川上村, July 26, 1982
15. モンキチョウ *Colias erate* (ESPER)  
1♀, 真庭郡新庄村高下, May 29, 1982
16. モンシロチョウ *Pieris rapae* (LINNAEUS)  
1♂, 吉備郡真備町上二万, Apr. 3, 1983
17. エゾスジグロシロチョウ *P. napi* (LINNAEUS)  
1♂, 新見市草間, Apr. 3, 1983

**シジミチョウ科 Lycaenidae**

18. ムラサキツバメ *Narathura hazalus* (HEWITSON)  
1♀, 岡山市長野, Sep. 18, 1983
19. ウラキンシジミ *Ussuriana stygiana* (BUTLER)  
1 ex., 総社市井山, June 6, 1982
20. オナガシジミ *Araragi enthea* (JANSON)  
3 exs., 真庭郡川上村, July 26, 1982
21. ミズイロオナガシジミ *Antigius attilia* (BREMER)  
2 exs., 小田郡矢掛町, June 12, 1976
22. ウスイロオナガシジミ *A. butleri* (FENTON)  
1 ex., 新見市豊永佐伏森国, June 11, 1983
23. オオミドリシジミ *Favonius orientalis* (MURRAY)  
1♀, 新見市草間, July 2, 1983
24. エゾミドリシジミ *F. jezoensis* (MATSUMURA)  
1♂, 真庭郡川上村湯船, June 27, 1976
25. ヒロオビミドリシジミ  
*F. latifasciatus* SHIROZU et HAYASHI

1♀, 新見市草間, June 24, 1973

1♂1♀, 新見市草間, June 19, 1982

1♂, 新見市豊永佐伏森国, June 18, 1983

26. ジョウザンミドリシジミ *F. taxila* (BREMER)  
1♂, 真庭郡川上村, July 26, 1982

\* 〒710 倉敷市大内937-8

## 27. ウラジロミドリシジミ

*F. saphirinus* (STAUDINGER)

1♀, 新見市草間, June 19, 1982

28. ミドリシジミ *Neozephyrus japonicus* (MURRAY)

2♂ 1♀, 真庭郡八束村犬挟岬, July 26, 1982

1♀, 真庭郡八束村犬挟岬, July 24, 1983

29. トラフシジミ *Rapala arata* (BREMER)

1♀, 真庭郡新庄村毛無山, May 29, 1982

## 30. ベニモンカラスシジミ

*Strymonidia iyonis* OTA et KUSUNOKI

1ex., 新見市草間, May 4, 1983 (飼育?)

2exs., 新見市草間, June 4, 1983

## 31. キマダラルリツバメ

*Spindasis takanonis* (MATSUMURA)

1ex., 英田郡英田町福本, June 11, 1983

32. ベニシジミ *Lycaena phlaeas* (LINNAEUS)

1ex., 總社市井山, July 18, 1982

1ex., 吉備郡真備町上二万, Apr. 3, 1983

33. ウラナミシジミ *Lamprides boeticus* (LINNAEUS)

1♂, 倉敷市連島町北面, Aug. 29, 1982

1♂ 1♀, 倉敷市玉島道口, Sep. 12, 1982

34. ヤマトシジミ *Pseudozizeeria maha* (KOLLAR)

1♂, 川上郡川上町穴門山神社, May 22, 1982

35. ゴマシジミ *Maculinea teleius* (BERGSTRASSER)

1♂ 1♀, 真庭郡川上村上德山, Aug. 9, 1983

36. ツバメシジミ *Everes argiades* (PALLAS)

1♀, 總社市井尻野秋葉山麓, June 26, 1981

1♂, 倉敷市玉島道口, June 12, 1982

37. ヒメシジミ *Plebejus argus* (LINNAEUS)

1♀, 真庭郡蒜山, June 27, 1976

ウラギンシジミチョウ科 *Curetidae*38. ウラギンシジミ *Curetis acuta* MOORE

1♂, 倉敷市児島宇野津, July 21, 1982

タテハチョウ科 *Nymphalidae*

## 39. ウラギンスジヒョウモン

*Argyronome laodice* (PALLAS)

1♂, 真庭郡川上村明連, June 27, 1982

## 40. オオウラギンスジヒョウモン

*A. rustica* (MOTCHULSKY)

1♀, 真庭郡新庄村田浪, July 26, 1982

## 41. クモガタヒョウモン

*Nephargynnis anadyomene* (C. et R. FELDER)

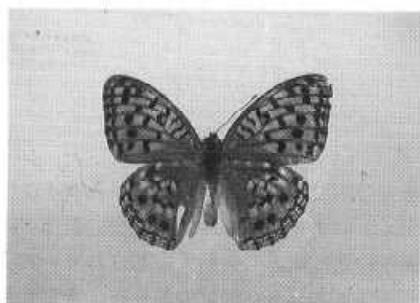
1♂, 總社市楓, May 15, 1983

1♂, 高梁市広瀬, May 29, 1983

## 42. オオウラギンヒョウモン

*Fabriciana nerippe* (C. et R. FELDER)

1♀, 倉敷市片島, July 20, 1960

43. ウラギンヒョウモン *F. adippe* (LINNAEUS)

1♀, 真庭郡川上村明連, June 27, 1982

44. イチモンジチョウ *Ladoga camilla* (LINNAEUS)

1♀, 真庭郡新庄村田浪, June 26, 1976

1♂, 真庭郡新庄村田浪, Aug. 1, 1976

45. ミスジチョウ *Neptis philyra* MENETRIES

1ex., 新見市草間, June 4, 1983

46. ホシミスジ *N. pryeri* BUTLER

1ex., 高梁市広瀬, May 29, 1983

## 47. ウスイロヒョウモンモドキ

*Melitaea protomedia* MENETRIES

2exs., 苦田郡上斎原村辰巳峠, July 3, 1982

3exs., 新見市豊永佐伏森国, June 11, 1983

48. ヒョウモンモドキ *M. scotosia* BUTLER

1ex., 新見市草間, June 25, 1967

49. キタテハ *Polygonia c-aureum* (LINNAEUS)

1ex., 吉備郡真備町上二万, Aug. 9, 1981

1ex., 吉備郡真備町上二万, Nov. 8, 1982

1ex., 吉備郡真備町上二万, Nov. 20, 1982

50. アカタテハ *Vanessa indica* (HERBST)

1ex., 吉備郡真備町上二万, Dec. 7, 1975

51. コムラサキ *Apatura metis* FREYER

1♂, 真庭郡川上村湯船, June 27, 1976

1♀, 倉敷市片島, July 25, 1983

ジャノメチョウ科 *Satyridae*52. オオヒカゲ *Ninguta schrenckii* (MENETRIES)

1ex., 真庭郡新庄村田浪, July 26, 1982

1ex., 真庭郡新庄村田浪, Aug. 10, 1982

## 53. キマダラモドキ

*Kirinia epaminondas* (STAUDINGER)

1ex., 真庭郡新庄村田浪, July 26, 1982

54. ヤマキマダラヒカゲ *Neope niphonica* BUTLER

1♀, 真庭郡新庄村高下, May 29, 1982

1♂, 真庭郡新庄村田浪, Aug. 10, 1982

55. ヒメジャノメ *Mycalesis gotama* MOORE

1ex., 吉備郡真備町上二万, Aug. 7, 1981

## 岡山県南西部のウスバシロチョウ

広瀬正明\*

岡山県内のウスバシロチョウの分布状況については、1986年に渡辺<sup>1)</sup>が過去の記録を総括しており、その後も中村<sup>2)7)</sup>、渡辺<sup>3)5)6)</sup>、末宗<sup>4)</sup>などの追加報告がなされている。

筆者は、1993年から1994年にかけて県南西部の分布調査を行い、以下の成果を得たので、まとめて報告しておく。

成羽町上光谷 (380~410m), 2♂ 1♀, 22. V.  
1993

成羽町坂本より西方1,500mの地点からさらに500m上流にかけて、3つのポイントで各々約20分程度の観察で、採集した個体の他に約20exs. を目撃している。ニガイチゴでの吸蜜が再々観察された。また、採集した1♀はフジの花に飛来したものである。なお、植林しているヒノキやスギの若木（高さ約3m）の枝で休止する個体が数頭目撲された。

備中町東油野北方 (550m), 1♂, 22. V. 1993

上記の上光谷から峠（標高約530m）を越えて、南へ約1,500mのなだらかな起伏のある地点である。早稲の水田の上を飛翔していたものを採集した。

川上町高山谷尻 (370m), 1♀, 8. V. 1994

備中町の中央部を南北に流れる長谷川の上流で、わずかに水田が開かれている環境である。他に2exs. を目撃している。

芳井町東三原 (370m), 2♂, 15. V. 1994

県道9号線の西三原から高山市への林道の脇、谷の最も奥の部分約200m四方の狭い範囲で採集した。他に3exs. を目撃している。

芳井町高山市下市 (570m), 2♂, 15. V. 1994

高山市の集落の南側の畑の中を飛翔していた。他に3exs. を目撃している。

同所, 11exs. 目撃, 22. V. 1994

ムラサキケマンの花に群がっていたもので、一部を撮影したが、破損個体が多かった。上記の目撃記録と同一の個体が含まれているかもしれない。

川上町上大竹上谷 (360m), 1♂, 15. V. 1994

大竹ダムより600m上流の小さな休耕田のアザミの花で吸蜜していた。本例が現在のところ、岡山県にお

ける南限の記録と思われる。（北緯34度42分）

これまでの岡山県内での報告例を検討してみると、北部中国山地の谷間や中部旭川流域では標高200m前後で、また、東部の吉井川中流域では標高100m以下の低地でも採集されているが、南西部ではおおむね350m以上の地点に生息しているようである。こうした東西の分布状況の違いがどのような理由によるものかは今後の課題の1つであり、食草の分布なども関係しているかもしれない。筆者が調査した上記地点では、食草であるムラサキケマンが比較的多く、今後、さらに南の地点での発見も十分可能であろう。

## 参考文献

- 1) 渡辺和夫(1986) 岡山県のウスバシロチョウ, すずむし(121): 1-13
- 2) 中村具見(1987) 高梁市西部でウスバシロチョウを採集, すずむし(122): 32
- 3) 渡辺和夫(1989) 川上郡川上町でウスバシロチョウを目撃, すずむし(123): 12
- 4) 末宗安之(1989) 作東町周辺のウスバシロチョウ, すずむし(123): 13
- 5) 渡辺和夫(1989) 成羽町のウスバシロチョウ, すずむし(123): 30
- 6) 渡辺和夫(1994) 川上町でウスバシロチョウを採集, すずむし(128): 27
- 7) 中村具見(1994) 旭町の南部におけるウスバシロチョウの一産地, すずむし(128): 27

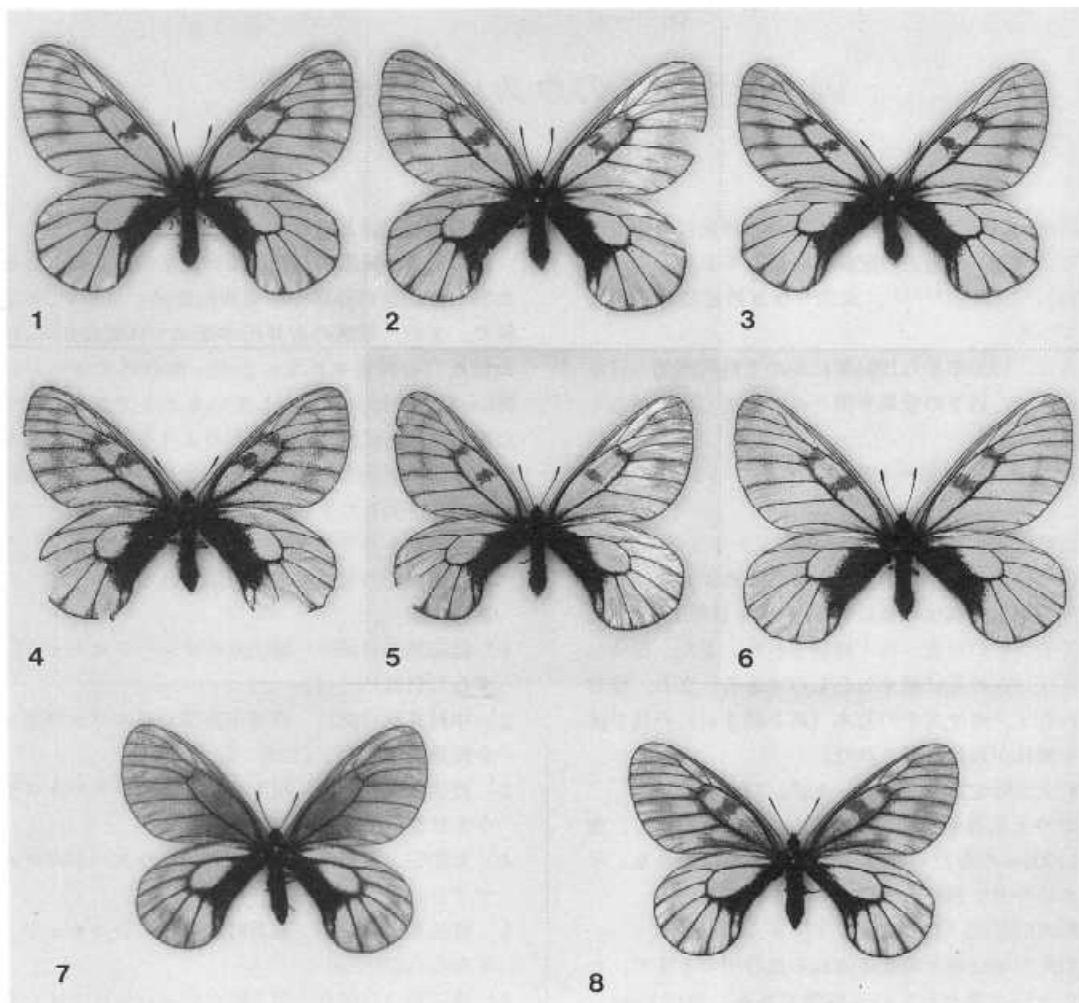
## [写真説明]

※ 1~6 (♂), 7~8 (♀)

※ 同一産地で個体変異が認められる場合は、複数個体を示した。

- 1 成羽町上光谷
- 2 備中町東油野北方
- 3 芳井町東三原
- 4 芳井町高山市下市 (黒い個体)
- 5 " (白い個体)
- 6 川上町上大竹上谷
- 7 成羽町上光谷
- 8 川上町高山谷尻

\* 〒710 倉敷市有城498-5



○ 過去に報告された産地

● 今回報告する産地

\* この報告において岡山県南西部とは、高梁市、川上郡及び後月郡をいう。

岡山県南西部におけるウスバシロチョウ分布図

## 岡山県におけるムカシトンボの分布と新産地

守 安 敦\*

ムカシトンボ *Epiophlebia superstes* (SELYS) は、日本特産種で、北海道、本州、四国、九州に分布し、山間の森林に囲まれた急流に生息している。

岡山県における本種の産地は、真庭郡勝山町神庭の滝<sup>5)12)</sup>、新見市草間絹掛の滝<sup>5)</sup>、阿哲峠<sup>12)</sup>、苫田郡鏡野町泉山<sup>7)8)9)</sup>、真庭郡川上村<sup>7)</sup>、真庭郡新庄村高下<sup>3)</sup>、真庭郡新庄村土用<sup>3)</sup>、真庭郡新庄村出浪<sup>3)</sup>、苫田郡上齋原村人形峠<sup>2)</sup>、真庭郡川上村湯船芋ヶ谷<sup>4)</sup>、阿哲郡大佐町伏谷<sup>4)</sup>、英田郡西粟倉村若杉峠<sup>4)</sup>、高梁市玉川<sup>4)</sup>、苫田郡加茂町<sup>11)</sup>、総社市櫻<sup>10)</sup>が報告されている。なお、倉敷昆虫館の小野洋氏によると、安江安宣氏の報告にある阿哲峠は、当時、新見市の伯備線井倉駅と高梁市の同方谷駅の間を指していたとのことである。

筆者は岡山県最南部の記録になると思われる芳井町で本種を採集しているので報告しておく。

1 ♂, 後月郡芳井町池谷, 13. V. 1995, 筆者採集・保管 [写真 1]

芳井町北部では、県北部での報告が多いクロサナエも筆者が採集している\*\*ことから、同様に県北からの記録が多い本種の生息している可能性は、倉敷昆虫館の重井博氏からも指摘されていた。

1995年1月8日に、この地域で本種幼虫の調査をしたが、この時は確認することはできなかった。1995年5月13日に、成虫を採集するため再び同地を調べていったところ、梅木川の上流に向かう途中の車内へ本種の雄が偶然飛び込んできたので採集したものである。午前11時25分ごろであった。この場所は、車道のすぐ横が溪流となっている。[写真2]

なお、倉敷昆虫館及び倉敷市立自然史博物館に収蔵されている標本を調べたところ、報告されている産地以外に以下のデータの岡山県産本種の標本を確認したので、あわせて報告しておく。

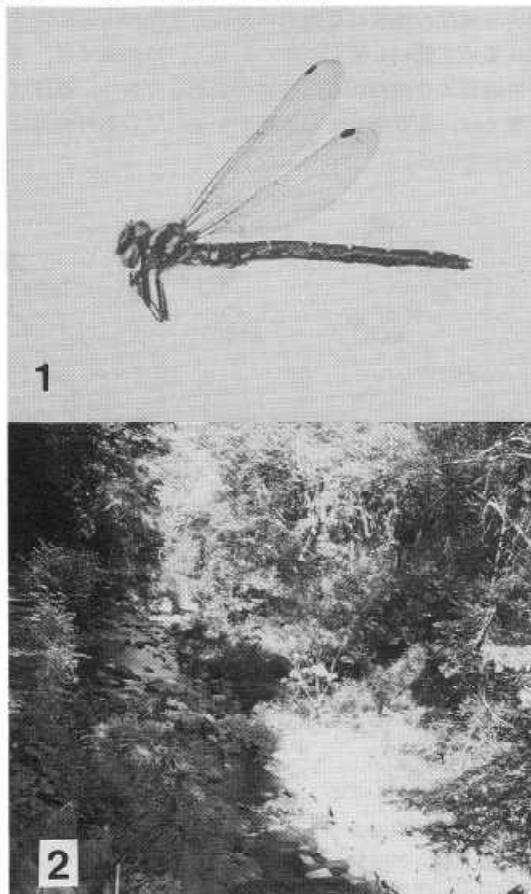
2 ♂, 苫田郡鏡野町岩屋, 10. V. 1964, 重井博採集, 倉敷昆虫館保管

1 ♂, 真庭郡新庄村毛無山, 18. V. 1980, 重井博

採集, 倉敷市立自然史博物館保管

1 ♂, 真庭郡新庄村毛無山, 7. VI. 1981, 重井博  
採集, 倉敷市立自然史博物館保管

1 ♀, 川上郡川上町穴門山, 3. V. 1983, 重井博  
採集, 倉敷市立自然史博物館保管



これらの産地を岡山県地図にプロットすると、図のようになる。朝比奈(1948)は、本種の産地について次のように述べている。「これらの記録を地図上にplotして眺めると、興味のあることには、その多くは、我が國の舊い地層、殊に古生層の露われた地域に含まれている。古生層との直接の關聯を云うのは、勿論輕率なことであるが、本種の分布が、個體の生活史の點から考察して、自然狀態の良く保存された、四時水の絶えることのない溪流地域に限られていることは、必

\* 〒710 倉敷市浦田2430

\*\* 本誌pp.21~22に収録されている「岡山県におけるクロサナエの分布と新産地」を参照のこと

然的にかかる地質構造の土地と関係が深いことを考へて差支えないと思う。又概して、新らしい安山岩などの露出した地区には、分布していない様に思われる。」

岡山県では、北部の産地は古成層以外の地域もあるが、中南部の産地はすべて古成層のあらわれた地域である。これは、朝比奈の指摘したように、北部は雨量が多く、地質にあまり左右されず、自然状態のよく保たれた水の絶えることのない渓流が存在するが、中南部では、古成層のあらわれた地域に限ってそのような渓流があるものと思われる。そう考えると、県中央部では、大島・奥島(1994)が報告した総社市梶の梶谷川より南部の地質は花崗岩のため、本種の生息の可能性は極めて低いと思われる。しかし、県西部では、芳井町池谷より南部にも古成層が広がっており、条件さえ整えば、より南部でも本種が生息している可能性は残されている。



岡山県におけるムカシトンボの産地

●：過去の記録

○：倉敷昆虫館、倉敷市立自然史博物館の収蔵標本の産地

☆：筆者が今回確認した産地

(詳しい地名のわからないものは、市町村の中央部にプロットした。)

末筆ながら、本種の過去の記録についてご教示いただいた重井博氏、過去の文献探しにご尽力いただいた小野洋氏、青野孝昭氏、奥島雄一氏、いろいろとお世話をなった岡山県自然保護センターの森生枝氏に心よりお礼申し上げる。

### 引用文献

- 朝比奈正二郎, 1948. ムカシトンボの知見総説(II). 新昆虫, 1(5): 34-39
- ドクトル・ザーメン(宇野弘之), 1964. 人形時代でウラン鉱ならぬムカシトンボをとらえる. すずむし, 14(2): 7-8
- 林憲一, 1963. 蜻蛉目. 新庄村の昆虫調査報告(その1). すずむし, 13(2): 3-5
- 林憲一, 1966. トンボ雑記. すずむし, (100): 72-74
- 廣瀬義躬, 1952. 岡山県下に於けるムカシトンボの産地. すずむし, 2(6): 9
- 石田昇三・小島圭三・石田勝義・杉村光俊, 1991. 日本産トンボ幼虫・成虫検索図説. 140pp. 東海大学出版会, 東京
- 片山豊八, 1959. 美作産蝶蛾目録. 岡山と昆虫, pp.1-60. 日本昆虫学会第十九回大会後援会事務局, 岡山
- 道信順, 1959. ムカシトンボ採集記. すずむし, 9(4): 9
- 道信順, 1968. トンボ目録. 美作の昆虫(1) チョウ・カミキリ・ハチ・トンボ分布資料, pp.23-26. 美作虫の会, 津山
- 大島康宏・奥島雄一, 1994. ムカシトンボの岡山県における南限記録. しぜんしくらしき, (11): 9
- 竹内幸夫, 1977. 津川川流域の昆虫相. 岡山県津川ダム建設に関する環境調査報告書, pp.55-63. 日本自然保護協会, 東京
- 安江安宣, 1959. 山陽昆虫案内. 岡山と昆虫, pp.70-73. 日本昆虫学会第十九回大会後援会事務局, 岡山

### おどしうみ

### クロシジミの記録 2題

土畑 重人

筆者は、中国山地と吉備高原南部においてクロシジミを確認しているので、報告する。

1♀, 真庭郡川上村苗代, 17. VII. 1994, 筆者採集・保管

1♀(白化型), 上房郡賀陽町吉川国立吉備少年自然の家, 22. VII. 1994, 筆者採集

両産地ともにアカマツ・ススキ等が自生していた。なお、賀陽町の個体は、残念ながら虫害を受け、現存しない。(〒711 倉敷市児島通生236-3)

## 岡山県におけるタベサナエの分布と新産地

守 安 敦\*

タベサナエ *Trigomphus citimus tabei* ASAHINAは日本特産亜種で、静岡県以西の本州と、四国、九州に分布する。平地や丘陵地の流れの緩やかな浅い小川に生息し、しばしば灌漑用のため池にも見られる<sup>①</sup>。

本種の岡山県での産地は、赤磐郡瀬戸町万富<sup>②</sup>、勝田郡勝田町<sup>③</sup>、津山市高野<sup>④</sup>、津山市小田中<sup>⑤</sup>、吉田郡加茂町<sup>⑥</sup>が報告されている。

なお、倉敷市種松山での本種の記録<sup>⑦</sup>は、筆者が標本を検したところオグマサナエであった。

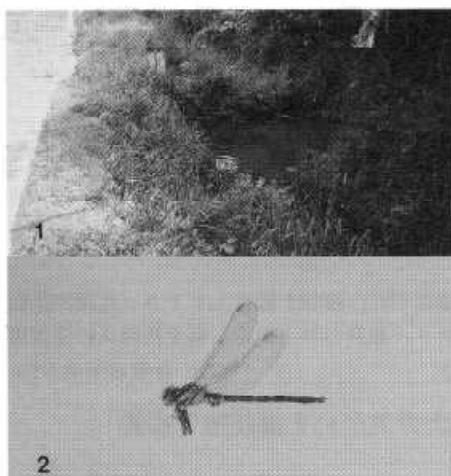
筆者は、新たに今までの記録より県南西部にあたる地域で本種を採集したので報告しておく。

幼虫1ex., 井原市稻木町, 12. VII. 1994, 筆者採集・保管

道沿いにある緩やかな小さい流れの落ち込みの部分で採集した [写真1]。この流れは約200m上流の池から始まっており、ほとんどの部分が3面コンクリート張りで、所々が自然のままに残されている。

1♂, 笠岡市入田, 3. V. 1995, 筆者採集・保管  
[写真2]

池に流れ込む細流のまわりにある田のあぜで採集した。



また、倉敷市立自然史博物館、岡山県自然保護センターに収蔵されている標本を調べたところ、すでに報告されているもの以外に以下のデータの岡山県産本種

の標本を確認したので、あわせて報告しておく。

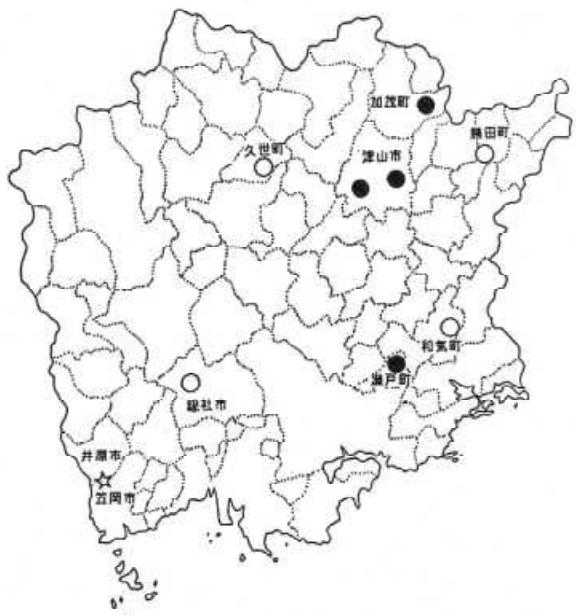
1♀, 総社市楓, 27. IV. 1994, 奥島雄一採集, 倉敷市立自然史博物館保管

1♀, 和気郡和気町勤, 5. V. 1976, 重井博採集, 倉敷市立自然史博物館保管

2♂, 和気郡和気町勤, 8. V. 1977, 重井博採集, 倉敷市立自然史博物館保管

1♀, 真庭郡久世町大内原, 5. V. 1990, 近藤光宏採集, 岡山県自然保護センター保管

これらの産地を岡山県地図にプロットすると、図のようになる。最近は、緩やかな浅い小川はコンクリートで固められることが多くなり、本種の生息場所はどんどん狭められているのではないかと危惧している。



岡山県におけるタベサナエの産地

●: 過去の記録

○: 倉敷市立自然史博物館、岡山県自然保護センターの収蔵標本の産地

☆: 筆者が今回確認した産地

(詳しい地名のわからないものは、市町村の中央部にプロットした。)

末筆ながら、過去の文献探しにご尽力いただいた倉敷昆虫館の小野洋氏、収蔵標本の確認をしていただい

\* 〒710 倉敷市浦田2430

た岡山県自然保護センターの森生枝氏に厚くお礼申し上げる。

#### 引用文献

- 1) 安東瑞夫, 1952. 熊山付近の蜻蛉. すずむし, 2 (6) : 9
- 2) 安東瑞夫, 1956. 作東の蜻蛉類 1. すずむし, 6 (2) : 1-5
- 3) 青野孝昭・奥島雄一編, 1994. 倉敷市生物目録 <昆虫類>. pp.93-233. 倉敷市立自然史博物館, 倉敷
- 4) 石田昇三・小島圭三・石田勝義・杉村光俊, 1991. 日本産トンボ幼虫・成虫検索図説. 140pp. 東海大学出版会, 東京
- 5) 道信順, 1968. トンボ目録. 美作の昆虫 (1) チョウ・カミキリ・ハチ・トンボ分布資料. pp.23-26. 美作虫の会, 津山
- 6) 竹内幸夫, 1977. 津川川流域の昆虫相. 岡山県津川ダム計画に関する環境調査報告書, pp.55-63. 日本自然保護協会, 東京

#### おとしふみ

#### アオマツムシの記録

近藤光宏

岡山県下のアオマツムシは、南部を中心に次第に分布を広げている。

ここで報告するのは、岡山県において1994年に確認したものである。

確認方法は、筆者自身が聞いた鳴き声を基本とするが、他の方から得た情報によるものも含まれている。

以下①-⑪の記録について、確認場所・年月日・説明の順に記し、地図上におよその位置を示した。

- ① 総社市黒尾, Sep. 3, 1994, pm.07:10; 砂川公園の松林で1♂の鳴き声を確認。
- ② 和気郡佐伯町田賀, Sep. 10, 1994, pm.06:40; 岡山県自然保護センター内数ヶ所で鳴き声を確認。
- ③ 赤磐郡赤坂町町苅田, Sep. 10, 1994, pm.08:00; 県道沿いの山林で鳴き声を確認。
- ④ 倉敷市鶴形一丁目, Sep. 11, 1994, pm.08:00; 鶴形山の北面で1♂の鳴き声を確認。1994年は夏の高温・少雨の影響か、1993年より少ない。
- ⑤ 和気郡佐伯町田賀, Sep. 17, 1994, pm.06:00; 岡山県自然保護センター内で多数の鳴き声を確認。
- ⑥ 岡山市原尾島四丁目, Sep. 中旬, 1994; マンション前のナツメノキ(目の高さ)で岡山県自然保護センターの森生枝氏確認。
- ⑦ 津山市鶴山公園, Sep. 21, 1994; 文化センターと宮川で岡山県自然保護センターの井上悦甫氏確認。
- ⑧ 倉敷市灘, Sep. 23, 1994, pm.08:00; マックスガソリンスタンド東の山林で鳴き声を確認。
- ⑨ 備前市三石町; 有吉氏によれば、平成になって急に増えたとのこと。
- ⑩ 倉敷市本町, Oct. 4, 1994, pm.07:05, 24°C; 鶴形山の南面でよく鳴いていた。
- ⑪ 倉敷市粒江, Oct. 30, 1994, pm.04:00; 種松山

の通称一沢谷で、標高170mくらいの所。快晴・無風、西日がさし、気温20°C。ピッチは遅く4~5回鳴いては小休止し、また鳴くことを繰り返していた。確かにすぐそばのヤシャブシにいると思い、だいぶ目を凝らして見たが、とうとう目撃はできなかった。これまで最も遅い記録である。



末筆ながら、情報を提供して下さった岡山県自然保護センター職員の井上悦甫、森生枝両氏に深謝申し上げる。  
(〒710 倉敷市中央2-16-14)

#### オナガアゲハを備前市で採集

土畑重人

下記のとおり備前市でオナガアゲハを採集したので、県南東部の記録として報告する。

1♀, 備前市閑谷(閑谷学校), 28.V.1994, 筆者採集・保管

(〒711 倉敷市児島通生236-3)

## カラスシジミの寄生蜂について

渡辺和夫\*

カラスシジミ *Fixsenia w-album fentoni* の分布及び生態については、中村・渡辺が別途報告<sup>\*\*</sup>しているので、ここではその調査の過程で得られた寄生蜂の記録をまとめて報告しておく。

カラスシジミへの寄生は、卵寄生蜂 (*Trichogramma evanescens*)、ヒメバチの1種、コマユバチなどが知られている<sup>†</sup>が、調査の過程で次のとおり卵寄生蜂以外の寄生蜂を確認することができた。

寄生蜂の同定に当たっては、コマユバチ類については林業試験場北海道支場の前藤薫博士、ヒメバチ類については鹿児島大学の柳下町鉢敏博士、アシブトコバチ類については筆者の調査期間中に御退任になられた元愛媛大学の立川哲三郎博士にお願いした。ここに謹んでお礼申し上げる。なお、未同定種については、今後それぞれの先生方から正式に発表されるものと思うので、現時点では御教示いただいた種名又は属名を付して報告する。

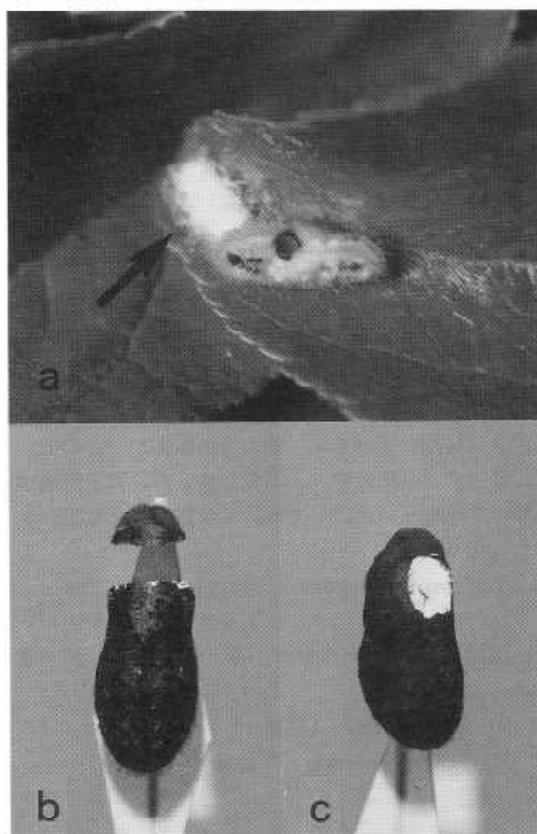
データの掲げ方は、寄生蜂が羽化脱出したカラスシジミ幼虫等の採集地、採集年月日、採集者、幼虫等の種別と個体数の順に記し、コマユバチ類は幼虫から脱出して繭を造るため蜂の造繭日及び成虫の羽化脱出日を、ヒメバチ類及びアシブトコバチ類は蛹から羽化脱出するため幼虫又は前蛹採集の場合はカラスシジミの蛹化日及び蜂の羽化脱出日、蛹採集の場合は蜂の羽化脱出日を記した。なお、蜂の羽化脱出日については年号を省略し、採集者については筆者=W、中村具見氏=Nと略記した。蜂の回収に御協力いただいた中村具見氏に感謝する。

## リスト

1. *Apaneles* sp. サムライコマユバチの一種  
小田郡美星町黒忠八日市, 11. V. 1986, N・W,  
3令幼虫2exs.
12. V. 造繭, 21. V. 羽化脱出, N [写真1].
13. V. 造繭, 22. V. 羽化脱出, W

他の正常なカラスシジミ幼虫（ただし、恐らくヒメバチ類又はアシブトコバチ類の寄生を受けたものは、

この段階では非寄生の幼虫と区別がつかない）が終令末期に食樹を降りてくる頃、3令のまま成長が止まったような状態の幼虫を発見したので、持ち帰ったところ、数日後に胴体下方側面に穴を開けて蜂の幼虫が脱出（現場は日撃していない）し、すぐ近くに白い繭を作り [写真a参照]、9日後に蜂が羽化脱出した。



2. *Anisobas artopoetes* UCHIDA  
ウラゴマダラシジミヒメバチ  
川上郡川上町領家八幡, 11. V. 1986, W, 終令幼虫2exs.
  15. V. 蛹化, 3. VI. 1♀羽化脱出 [写真2]
  16. V. 蛹化, 2. VI. 1♂羽化脱出 [写真3]
  - 同所, 17. V. 1986, W, 蛹2exs.
  2. VI. 1♀羽化脱出
  5. VI. 1♀羽化脱出
- 新見市豊永宇山先村, 24. V. 1986, N, 蛹1ex.

\* 〒719-11 総社市三輪203

\*\* 本誌 pp. 3~17に収録されている「岡山県のカラスシジミ分布調査記録」を参照のこと

## 2. VI. 1♂羽化脱出

高梁市宇治町穴田蔭地, 4. VI. 1988, W, 蛹lex.

## 13. VI. 1♀羽化脱出

櫛下町先生の御教示によれば、本種の寄主はウラゴマダラシジミとカラスシジミだけが知られているということである。

No.2~No.5のヒメバチ類については、羽化脱出に至る経過がほぼ同じと思われる所以、ここで一括して示しておく。カラスシジミが蛹化後、蛹の体色が正常個体の淡い茶褐色から徐々に赤褐色に変化し、体色だけで寄生蛹と分かるようになり、カラスシジミ成虫の羽化より若干遅れて、蛹の頭部に当たる部分を横に真二つに割ってヒメバチが羽化脱出する。[写真b参照]

3. *Barichneumon strymonidiae* KUSIGEMATI

新見市草間人原, 2. VI. 1985, W, 蛹lex.

## 19. VI. 1♀羽化脱出 [写真4]

1989年に櫛下町先生により新種として記載<sup>3)</sup>されたものである。♂が発見されていないようなので、草間周辺の調査を続けたい。

4. *Anisobas*に近い属 sp.

川上郡備中町平川下郷, 2. VI. 1985, W, 蛹lex.

## 15. VI. 1♂羽化脱出 [写真5]

同所で採集した蛹 3exs. のうち寄生蜂が羽化脱出したのは 2exs. だったが、この個体に先立ち 6月13日に羽化脱出したヒメバチは、初めての個体だったので、深く考えずゴミ箱の中に入れてしまった。櫛下町先生からの御連絡をいただいた時には非常に残念な想いをした次第である。

5. *Coccygomimus disparis* (VIERECK)

ヒメキアシヒラタヒメバチ

小田郡美星町黒忠八日市, 4. VI. 1988, N, 蛹lex.

## 16. VI. 羽化脱出 [写真6]

6. *Brachymeria obscurata* (WALKER)

キアシブトコバチ

川上郡川上町領家八幡, 17. V. 1986, W, 蛹lex.

## 14. VI. 羽化脱出 [写真7]

真庭郡久世町目木大内原, 18. V. 1986, W, 蛹lex.

## 13. VI. 羽化脱出

苦田郡奥津町細田, 6. VI. 1986, W, 蛹lex.

## 19. VI. 羽化脱出

川上郡川上町地頭西谷, 21. V. 1989, W, 蛹lex.

## VI. 羽化脱出 (羽脱日不明, 筆者同定)

川上郡備中町布賀下長谷, 3. VI. 1989, W, 蛹lex.

## 12. VI. 羽化脱出 (筆者同定)

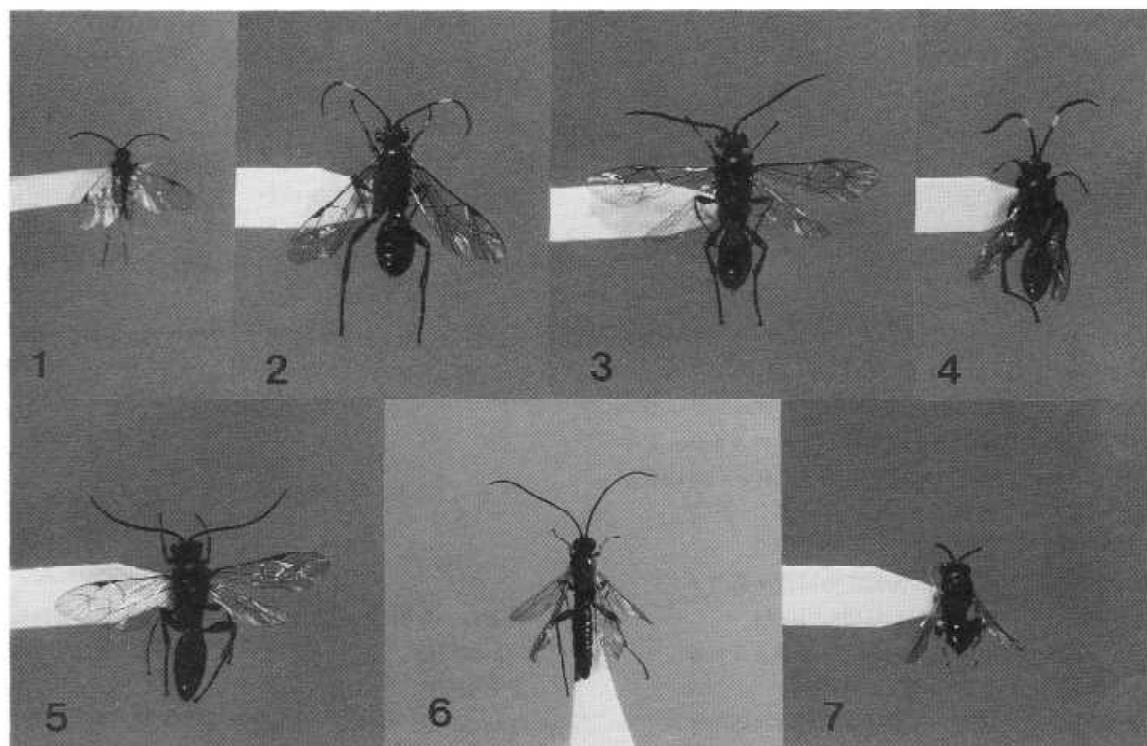
本種は、カラスシジミが蛹化後約26~28日で、蛹の頭部よりの体側面に穴をあけて羽化脱出する。[写真c参照] 羽化脱出までに最も長い時間を要し、カラスシジミが羽化した後、しばらく羽化脱出せず残っている寄生蛹は、ほとんど本種のものと考えてよいと思われる。寄生蛹の色は、ヒメバチ類と同様の変化を示す。寄主に関しては、数多くの鱗翅類が知られており、シジミチョウ科ではウラナミアカシジミとキマダラルリツバメが知られている<sup>2)</sup>ようだ。

なお、川上郡備中町平川下郷で1989年6月3日に得た蛹は、明らかに寄生蛹の色に変色したが、羽化脱出しないため蛹を割って調べたところ、ハチの幼虫と思われるもののミイラが出てきた。また、上房郡北房町阿口原茂で1991年5月19日に得られた蛹等から羽化脱出したヒメバチ類 4exs. については、まだ櫛下町先生に標本を送付しておらず、未同定のままである。

以上、本種の寄生蜂について述べてきたが、1985年から86年の調査などでは、寄生が多く確認された(1985年の調査では明らかに寄生と判別される蛹は採集していない)。反面、1987年や1990年の調査では、病気による死亡と思われる例が若干あるものの、寄生は1例も確認されず、寄生率は年によって変化が多いようだ。これは、その年の天候の変動により、カラスシジミと寄生蜂のライフサイクルが微妙に合わなくなることなどが原因となっているのかもしれない。また、寄生率には地域差も見られ、川上郡川上町領家八幡のようにほとんどの個体が寄生されているところから小田郡美星町黒忠八日市や高梁市宇治町本郷笹尾西のようにほとんど寄生の例のないところまで見られる。これは食樹の生える環境、例えばオープンランドか山際かなどとも関係しているのではないかと思われる。こうした問題を含め、今後も引き続き調査を進めたい。

## 参考文献

- 1) 福田晴夫ほか(1984) 原色日本蝶類生態図鑑(III) : 190-193, 保育社(大阪)
- 2) 山崎哲郎(1986) キマダラルリツバメの寄生蜂. 蝶研フィールド(4) : 29
- 3) Kusigemati, K., 1989. Descriptions of Three New Ichneumonflies Parasitic on Lycaenid Butterflies in Japan. Mem. Fac. Agr. Kagoshima Univ., 25:83-89



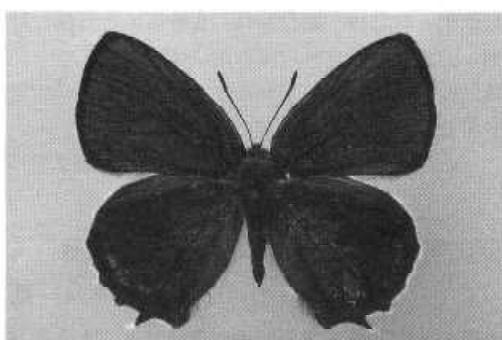
## おとしへみ

真備町でウラジロミドリを採集

中村具見

瀬戸内沿岸低地帯では、児島半島や清音村黒田などに局地的な産地が知られているにすぎないウラジロミドリシジミを、これまで記録のなかったと思われる真備町で採集することができたので報告しておく。

吉備郡真備町上二万・花会谷 (130m), 4♂, 4. VI. 1994



最近開通した倉敷市玉島服部から真備町下二万方面に至る広域農道の周辺に、ナラガシワが主体の落葉広葉樹林が多いことを、倉敷市立自然史博物館の青野館

長と奥島学芸員からお聞きしたので、早速調査したところ上記のとおり得ることができた。

この付近のナラガシワ林は、概して大木が多いため、ネットがなかなか下枝に届かず採集には苦労した。なお、発生の初期であったせいか、ほとんど新鮮な個体ばかりであった。最後に、ナラガシワの分布について御教示いただいた青野、奥島両氏に深謝します。

(〒719-11 総社市真壁1048)

成羽町北部での  
メスアカミドリシジミの記録  
広瀬正明

吉備高原北西部地域のメスアカミドリシジミについては、中村<sup>1)</sup>の報告以後、数編の記録がある。さらに三宅<sup>2)</sup>と中村<sup>3)</sup>は、1994年に採卵を主とした調査を行い、同地域にはこれまで考えられていた以上に本種が広い地域にわたって生息していることを明らかにしている。

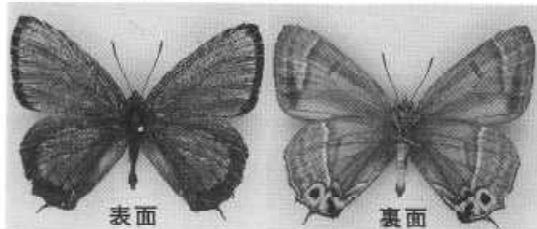
筆者は、成羽町北部において下記のような採集・目撃例を得ているが、中村氏より、成虫の採集例は少なく、記録に残しておくべきであるとの助言をいただいた

たので、分布資料として報告しておきたい。

成羽町上光谷猿神山登山道 (430m)

1♂採集 [写真], 7exs. 目撃, 27. VI. 1993

2♂採集, 3exs. 目撃, 26. VI. 1994



この他、1982年7月4日に上光谷 (390m) において前翅に顕著な橙色紋を有するゼフィルス 1ex. を目撃しているが、現時点では本種の♀であった可能性が大きいと考えている。

#### 参考文献

- 1) 中村具見 (1984) 吉備高原地域西北部のメスアカミドリシジミ, すずむし (119) : 10-11
- 2) 三宅誠治 (1994) 岡山県南西部のメスアカミドリシジミ, みちしるべ (17) : 95-97
- 3) 中村具見 (1994) 吉備高原地域西北部のメスアカミドリシジミ (続報), すずむし (128) : 21-24  
(〒710 倉敷市有城498-5)

#### 岡山市内における

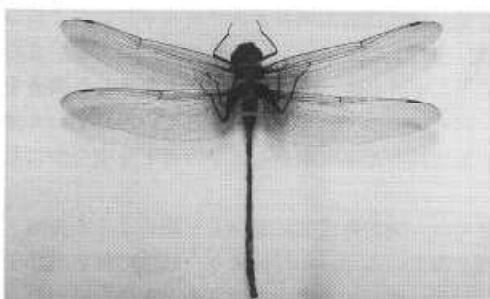
#### キイロヤマトンボ採集記録

大島 康 宏

キイロヤマトンボ *Macromia daimoji* OKUMURA は、1993年に倉敷市種松山において岡山県で初めて採集され (守安, 1994a), その後、倉敷市内での追加記録が報告されている (守安, 1994b) が、今のところ、隣の岡山市からの報告はない。

今回、筆者は岡山市において採集された本種の標本を検する機会を得たので、ここに報告しておく。

1♀, 岡山市宿, 4. VI. 1993, 河邊誠一郎採集, 筆者保管



採集された河邊博士の話によると、林道を歩いていたところ、正面からゆっくりと飛んできた個体をネットされたとのこと。

末筆ではあるが、この報告にあたり貴重な標本を提供してくださり、記録の発表を快く許された河邊誠一郎博士に厚くお礼申し上げる。

#### 引用文献

- 守安敦, 1994a. 最近の種松山山系のトンボ, すずむし, (128) : 1-3  
\_\_\_\_\_, 1994b. 高梁川のキイロヤマトンボ, しぜんしくらしき, (11) : 12  
(〒713 倉敷市玉島中央町1-20-7)

#### チャイロホソヒラタカミキリを 倉敷市で採集

土畠 重人

筆者は、倉敷市生物目録<昆虫類> (青野・奥島編, 1994) に収録されていないチャイロホソヒラタカミキリを倉敷市内で採集しているので、報告する。

1ex., 倉敷市由加 (市立由加少年自然の家), 18. VI. 1993, 筆者採集, 倉敷市立自然史博物館保管

自然の家体育館下の道路で、車にひかれていた個体を得た。



#### 参考文献

- 青野孝昭・奥島雄一編 (1994) 倉敷市生物目録<昆虫類>, 倉敷市立自然史博物館: 93-233  
赤枝一弘 (1992) チャイロホソヒラタカミキリの記録, すずむし (127) : 25  
(〒711 倉敷市児島通生236-3)

#### 英田町でのヒロオビミドリ採集記録

中村 具見

吉備高原東部の吉井川以東の地域では、ナラガシワが少なくないにもかかわらず、ヒロオビミドリシジミは一般に生息地が局限される傾向があり、ウラジロミドリシジミに比べて確認された産地は少なく、ほとん

と報告されていない。

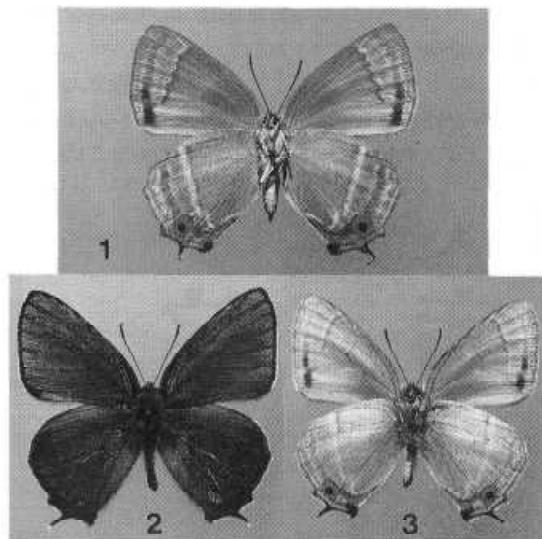
筆者もこれまでナラガシワのあるところでは各所で調査を試みてきた。その結果、大部分の地点ではウラジロミドリしか得られなかつたが、下記のとおり英田町でヒロオビミドリを得てゐるので報告しておく。

英田郡英田町福本・天神 (80m) 1♀ [写真1：裏面], 12. VI. 1977

町並みの背後にある小さな谷筋のナラガシワ林で採集したもの。当日、目撃したのはこの個体のみ。前後翅とも裏面中央部の白帯はそれほど広くなく、また前翅裏面の場合、屈曲してサザナミ状になる等、軽微な異常が認められるため、一見するとヒロオビラしからぬ個体であるが、地色や亞外縁の白帯等は本種の特徴を示している。

英田郡英田町尾谷 (100m) 1♂ [写真2：表面，写真3：裏面], 13. VI. 1992

この付近では、谷筋の山麓一体にナラガシワはきわめて普通に自生しているが、枝先から飛び出すゼフィルスはほとんどがウラナミアカ、ウラジロミドリとウスイロオナガであり、本種はこの個体しか発見できなかった。



上記2産地とも確実に生息していることは疑いないが、各々1個体だけの採集例であり、この付近では非常に少ないものようである。

(〒719-11 総社市真壁1048)

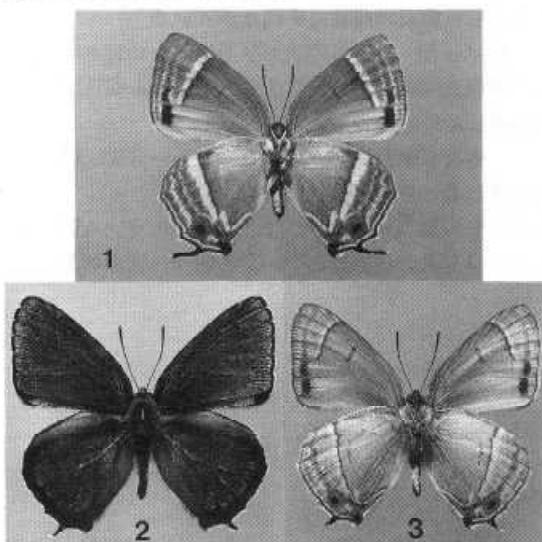
### 富村でヒロオビミドリを採集

中 村 具 見

中国山地帶では、低地性のナラガシワは次第に密度が低くなつて、集落の周辺や渓谷沿いなどに細々と自生が認められるだけとなる。したがつて、ヒロオビミドリシジミの分布も必然的に限定されるため、これままで確認された産地は多くないようである。

富村付近では渓谷沿いに点在するナラガシワを拠り所として生息しているものとみられるが、今のところ未記録と思われる所以、筆者の採集例を次に報告しておく。

1♂ 1♀, 苫田郡富村富西谷・篠坂 (550m) 及び入間 (490m) 23. VI. 1990



富西谷の宮原から大倉地区に通じる県道の峠付近の山麓（入間）に点々と孤立して生えているナラガシワの中で、比較的大きな木からビーティングにより1♀ [写真1：裏面] を得たのち、この峠を越えて大空山方面に至る林道の入口（篠坂）から少し登ったあたりで、やはり草原の一角にあるナラガシワから飛び出した1♂ [写真2：表面，写真3：裏面] を得た。

富村の中央部にあたるこの付近にはまとまったナラガシワ林というべきものではなく、草原に孤立的に生えたものが点在する程度であり、概して個体数は少ないものと思われる。

(〒719-11 総社市真壁1048)

**— 目 —**

|                    |      |    |
|--------------------|------|----|
| サツマシジミを大佐山で採集      | 廣瀬正明 | 1  |
| 岡山県のカラスシジミ分布調査記録   |      |    |
| 中村具見・渡辺和夫          | 3    |    |
| 岡山県御津郡建部町田地子に      |      |    |
| おけるヤンマ類の記録         | 澤田博仁 | 18 |
| キイロヤマトンボ幼虫を        |      |    |
| 岡山県西部及び広島県東部で採集    | 守安 敦 | 20 |
| 岡山県におけるクロサナエの      |      |    |
| 分布と新産地             | 守安 敦 | 21 |
| 岡山県から採集した甲虫類の記録・訂正 |      |    |
| 山地 治               | 23   |    |
| 浅野憲一氏の採集標本の中から     | 小松 恵 | 27 |
| 倉敷市立自然史博物館に寄贈されている |      |    |
| 故浅野憲一氏採集のチョウ類標本    | 青野孝昭 | 29 |
| 岡山県南西部のウスバシロチョウ    | 廣瀬正明 | 31 |
| 岡山県におけるムカシトンボの     |      |    |
| 分布と新産地             | 守安 敦 | 33 |
| 岡山県におけるタベサナエの      |      |    |
| 分布と新産地             | 守安 敦 | 35 |
| カラスシジミの寄生蜂について     | 渡辺和夫 | 37 |
| ーおとしぶみー            |      |    |
| 倉敷市街地にて            |      |    |
| ウラミスジンジミを採集        | 津田和良 | 2  |

**— 次 —**

|                  |      |    |
|------------------|------|----|
| 山陽町の蝶数種について      | 尾関啓吉 | 2  |
| ウラジロミドリシジミの      |      |    |
| 倉敷市からの記録         | 青野孝昭 | 17 |
| メスアカミドリシジミの記録    | 山崎法子 | 19 |
| ミドリヒョウモン暗色型♀の記録  | 土畠重人 | 19 |
| 岡山市北部における        |      |    |
| ヒロオビミドリの採集記録     | 中村具見 | 22 |
| データの訂正について       | 中村具見 | 25 |
| ヒロオビミドリと         |      |    |
| ハヤシミドリの混棲地について   | 中村具見 | 26 |
| 鬼ヶ嶽温泉にて          |      |    |
| ミヤマルリハナカミキリ採集    | 岩出 育 | 28 |
| クロシジミの記録2題       | 土畠重人 | 34 |
| アオマツムシの記録        | 近藤光宏 | 36 |
| オナガアゲハを備前市で採集    | 土畠重人 | 36 |
| 真備町でウラジロミドリを採集   | 中村具見 | 39 |
| 成羽町北部での          |      |    |
| メスアカミドリシジミの記録    | 廣瀬正明 | 39 |
| 岡山市内における         |      |    |
| キイロヤマトンボ採集記録     | 大島康宏 | 40 |
| チャイロホソヒラタカミキリを   |      |    |
| 倉敷市で採集           | 土畠重人 | 40 |
| 英田町でのヒロオビミドリ採集記録 | 中村具見 | 40 |
| 富村でヒロオビミドリを採集    | 中村具見 | 41 |

# 医 療 法 人 重 井 病 院

倉敷市幸町 ☎ 086 (422) 3655

**編集後記**

何と丸1年遅れてしまいました。全くもってはほとんど言葉になりません。しかし、毎度のことながら、「原稿さえあれば…」というのが正直なところで、現在手元に残ったのは紙面調整用に撮影子が書いておいた短報が1編のみという状況です。このままでは次号の編集も危ういぞ!! 岩さんのご協力をよろしくお願いします。

(K.W.)

**す す む し 129号**

1996年2月29日発行

発行者 倉敷昆虫同好会 (〒710 倉敷市幸町 倉敷昆虫館内)  
 振替口座 01210-2-6927  
 印刷所 サンコー印刷株 (総社市真壁871-2)